

令和4年度生物群集保護林の地帯区分について

1 生物群集保護林（保護林設定管理要領より抜粋）

(1) 目的

地域固有の生物群集を有する森林を保護・管理することにより、森林生態系からなる自然環境の維持、野生生物の保護、遺伝資源の保護、森林施業・管理技術の発展、学術の研究等に資することを目的とする。

(2) 設定の基本的な考え方

森林管理局長は、次の各号のいずれかに該当するもののうち、(1)の目的から特に保護・管理を必要とする区域を生物群集保護林として設定することができるものとする。

ア 自然状態が十分保存された天然林を主体とした、地域固有の生物群集がまとまりを持って存在する区域であって、原則として300ヘクタール以上の規模を有するもの。

イ 自然状態が十分保存された天然林を中心に、地域固有の生物群集が存在し、今後、復元の取組が見込まれる森林を周辺部に包含する区域であって、原則として1,000ヘクタール以上の規模を有するもの。

なお、設定する区域には、自然状態が十分保存された天然林と一体的に保護・管理すべき草地、湿地、高山帯、岩石地等を含めることができるものとする。

(3) 地帯区分

生物群集保護林は、原則として一の区域について保存地区及び保全利用地区に区分するものとする。ただし、地帯区分を行う合理的な理由が見いだせない場合は、この限りでない。

ア 保存地区は、自然状態が十分保存された天然林を主体とする区域とする。

イ 保全利用地区は、保存地区に外部からの影響が直接及ばないよう緩衝の役割を果たすために必要と考えられる広がりを持つ、原則として保存地区と同質の天然林を主体とする区域とし、天然林と一体的に保護・管理することが相応な人工林を含めることができるものとする。

2 地帯区分設定検討についての基本的な考え方について

①森林伐採の可能性がある場合

保護林区域に外接する国有林に保全利用地区を設定し、保護林に編入する。

幅 概ね50m以上

ただし、隣接する国有林が保護林とすることが出来ない区域（レクリエーションの森、大規模な貸付地、分収林等第三者権利がある箇所等）の場合は、保護林区域内に保全利用地区を設定するなど、現地の状況に応じて設定する

②森林伐採の可能性がない場合（国有林）

機能類型：自然維持タイプ（原則として人為を加えず、自然の推移に委ねる保護及び管理を行う森林。）

保護林区域の外側に緩衝機能があるため保全利用地区は設定しない。

③森林伐採の可能性がない場合（私有林）

自然公園法特別保護地区等※他の法令により地域指定されており、実質的に保全利用地区の役割が果たされると判断されるとき。

※・自然公園特別保護地区及び第1種、第2種特別地域

- ・自然環境保全地域特別地区
- ・都道府県自然環境保全地域特別地区、
- ・天然記念物に係る指定地（文化財保護法（昭和25年法律第214号）第128条第1項の規定により定められた天然記念物保存のための地域を含む。）
- ・鳥獣保護区特別保護地区 など

私有地に緩衝機能があるため保全利用地区は設定しない。

④上記1（3）「地帯区分を行う合理的な理由が見いだせない場合」について

平成27年度保護林制度改正を受け、既存保護林が生物群集保護林に再編されるに当たり、それらの区域は地帯区分を想定せずに過去に設定されたものであることから、生物群集保護林に再編される全ての保護林について画一的に地帯区分を行うのではなく、均質な天然林で区分が難しい上に外部からの影響も考えられないなど、あえて地帯区分を行う合理的な理由が見いだせない場合については地帯区分を行わなくともよいこととする。なお、改めて地帯区分の必要性が見いだされる場合は、保護林管理委員会の意見を踏まえつつ検討を行う。

3 令和4年度生物群集保護林の地帯区分について

①阿武隈高地生物群集保護林（磐城森林計画区・福島県）1,189.84ha（別紙1）

○法令

自然公園関係：保護林は県立自然公園第2種特別地域・第3種特別地域・普通地域に指定。一部隣接する私有地に国立公園普通地域の指定。

保安林関係：保護林の一意部を除き土砂流出防備保安林に指定、隣接は水源かん養保安林・土砂流出防備保安林・土砂崩壊防備保安林に指定。

○機能類型

保護林全域が自然維持タイプに設定されており、周囲は水源涵養タイプ及び山地災害防止タイプに設定。

○その他

保護林には私有地が接している。また、保護林周辺の国有林も大部分を人工林が占める。

設定方針： 周囲の人工林について、将来的な林分管理等を検討のうえ小班分割し保全利用地区を設定。ただし、一部隣接する区域に分収林契約箇所があることから、分収林契約箇所及び隣接する小班のうち管理経営上保全利用地区を設定することが難しい区域については、利用地区設定を見合わせたうえで、分収林契約解除後に保全利用地区設定を行う。

②秩父山地生物群集保護林（埼玉森林計画区・埼玉県）2,145.46ha （別紙2）

○法令

自然公園関係： 保護林は国立公園特別保護地区・第1種特別地域・第2種特別地域に指定。隣接地は国立公園特別保護地区・第1種特別地域・第2種特別地域・第3種特別地域・普通地域に指定。

保安林関係： 保護林及び隣接地は水源かん養保安林に指定。

○機能類型

保護林及び隣接地は自然維持タイプに設定。

○その他

保護林には民有地が接しており国立公園第2種特別地域・普通地域に指定。

なお、長野県側については中部森林管理局が管轄する国有林であり、国立公園普通地域及び自然維持タイプとなっている。

設定方針： 国有林においては、接する人工林がなく、機能類型が全て自然維持タイプであること、民有地においても国立公園に指定され、急峻な地形と天然林に囲まれており、伐採等外部からの影響も考えられないことから、保全利用地区については設定を見合わせる。

③丹沢山地生物群集保護林（神奈川森林計画区・神奈川県）880.85ha （別紙3）

○法令

自然公園関係： 保護林は国定公園特別保護地区・第1種特別地域・第2種特別地域に指定。隣接地は国定公園特別保護地区・第1種特別地域・第2種特別地域に指定。

保安林関係： 保護林及び隣接地は土砂流出防備保安林に指定。

○機能類型

保護林は自然維持タイプに設定。隣接地は森林空間利用タイプに設定。

○その他

保護林には民有地が接しており、国定公園特別保護地区・第1種特別地域・第2種特別地域に指定。

設定方針： 隣接する民有地を含め、周囲を国定公園特別保護地区・第1種特別地域・第2種特別地域に指定されており、実質的に保全利用地区の役割が果たされると判断されることから保全利用地区の設定を見合わせる。

④小松原湿原生物群集保護林（中越森林計画区・新潟県）1,498.84ha（別紙4）

○法令

自然公園関係： 保護林は国立公園第2種特別地域・普通地域・県立公園自然環境保全特別地区に指定。隣接地は国立公園第1種特別地域・第2種特別地域・普通地域に指定。

保安林関係： 保護林は水源かん養保安林・土砂流出防備保安林に指定されており、一部普通林を含む。また、隣接地は一部土砂流出防備保安林・水源かん養保安林に指定。

○機能類型

保護林は自然維持タイプに設定。隣接地は山地災害防止タイプ・水源涵養タイプ・森林空間利用タイプに設定。

○その他

保護林に隣接する人工林は無く、周囲を天然林に囲まれている。（現存する人工林からの離隔距離 71m）

また、機能類型における水源涵養タイプにおける天然林の施業群については天然林複層伐区及び択伐に設定。

なお、天然林複層伐区及び択伐施業群は、関東森林管理局管理経営の指針において、気象、地形、土壌等の自然条件及び林業技術体系等からみて、公益的機能の維持増進を図るため、人為を加える必要があると認められる林分での施業を行う箇所となっている。管轄する森林管理署では保護林内にある小松原湿原が県立自然公園自然環境保全特別地区に指定され、地元自治体より周辺の保全や保護に対する要望が出されてされており、当該箇所において、伐採等施業は計画していない。

設定方針： 現地については、均質的な天然林となっており、自然公園の指定及び保護林の位置的状況と併せ地元要望等を鑑みた場合、森林伐採の可能性がない森林と判断し、上記地帯区分の基本的な考え方を準用のうえ保全利用地区の設定については見合わせる。

⑤守門岳生物群集保護林（中越森林計画区・新潟県）1,778.26ha（別紙5）

自然公園関係： 保護林は国定公園特別保護地区・第1種特別地域・第2種特別地域・第3種特別地域に指定。隣接地は国定公園第1種特別地域・第2種特別地域・第3種特別地域・県立公園第2種特別地域に指定。

保安林関係： 保護林は土砂流出防備保安林・水源かん養保安林・普通林に指定。隣接地は水源かん養保安林・土砂流出防備保安林・普通林に指定。

○機能類型

保護林は自然維持タイプに設定。隣接地は自然維持タイプ・山地災害防止タイプ・水源涵養タイプに設定。

○その他

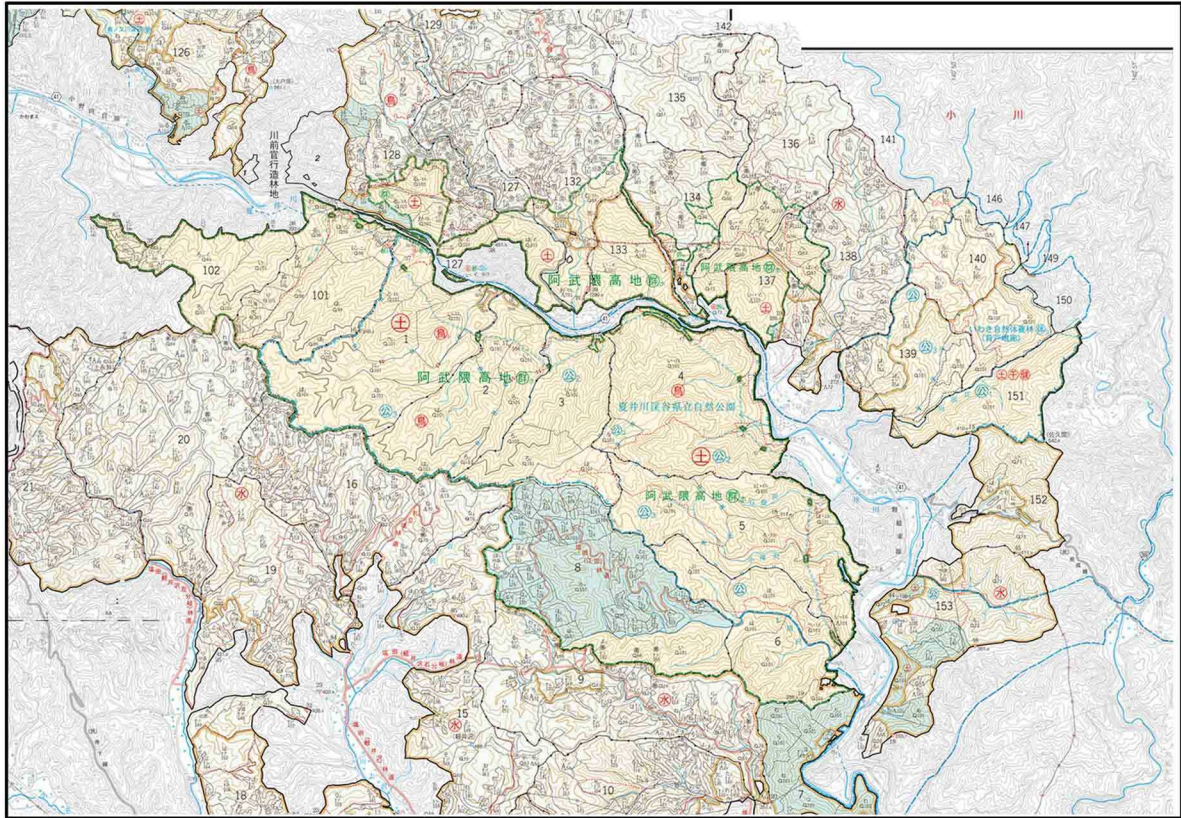
保護林に隣接する人工林は無く、周囲を天然林に囲まれている。(現存する人工林からの離隔距離 170m)

また、機能類型における水源涵養タイプにおける天然林の施業群については天然林複層伐区及び択伐に設定。

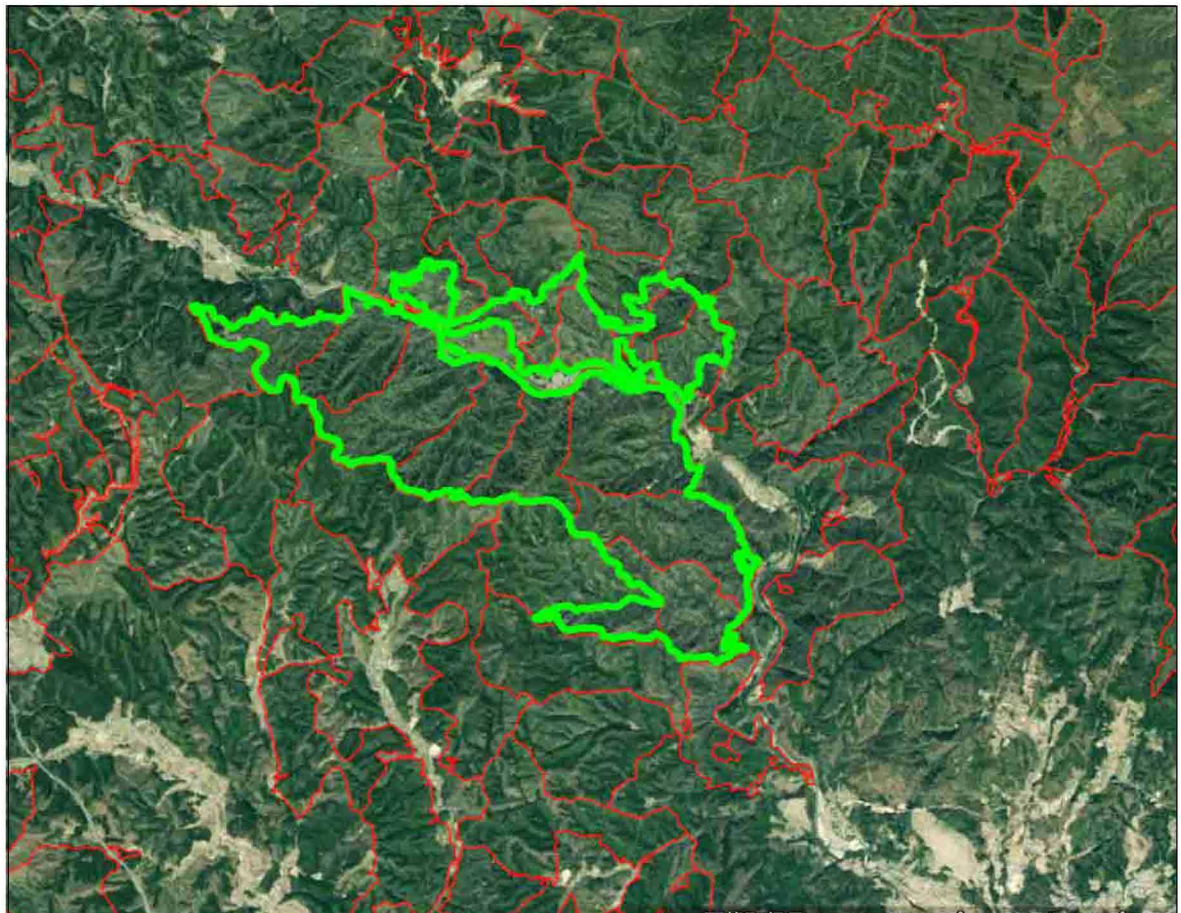
なお、天然林複層伐区及び択伐施業群は、関東森林管理局管理経営の指針において、気象、地形、土壌等の自然条件及び林業技術体系等からみて、公益的機能の維持増進を図るため、人為を加える必要があると認められる林分での施業について行う箇所となっている。管轄する森林管理署では保護林内に日本のブナ百名山「守門岳」が包括されており、多くの登山者の入林が見込まれること、また、急峻な地形であること等を勘案し伐採等施業は計画していない。

設定方針： 現地については、均質的な天然林となっており、自然公園の指定及び地形・地理的な状況を鑑みた場合、外部からの影響もないことから、上記地帯区分の基本的な考え方を準用のうえ保全利用地区の設定については見合わせる。

施業実施計画図

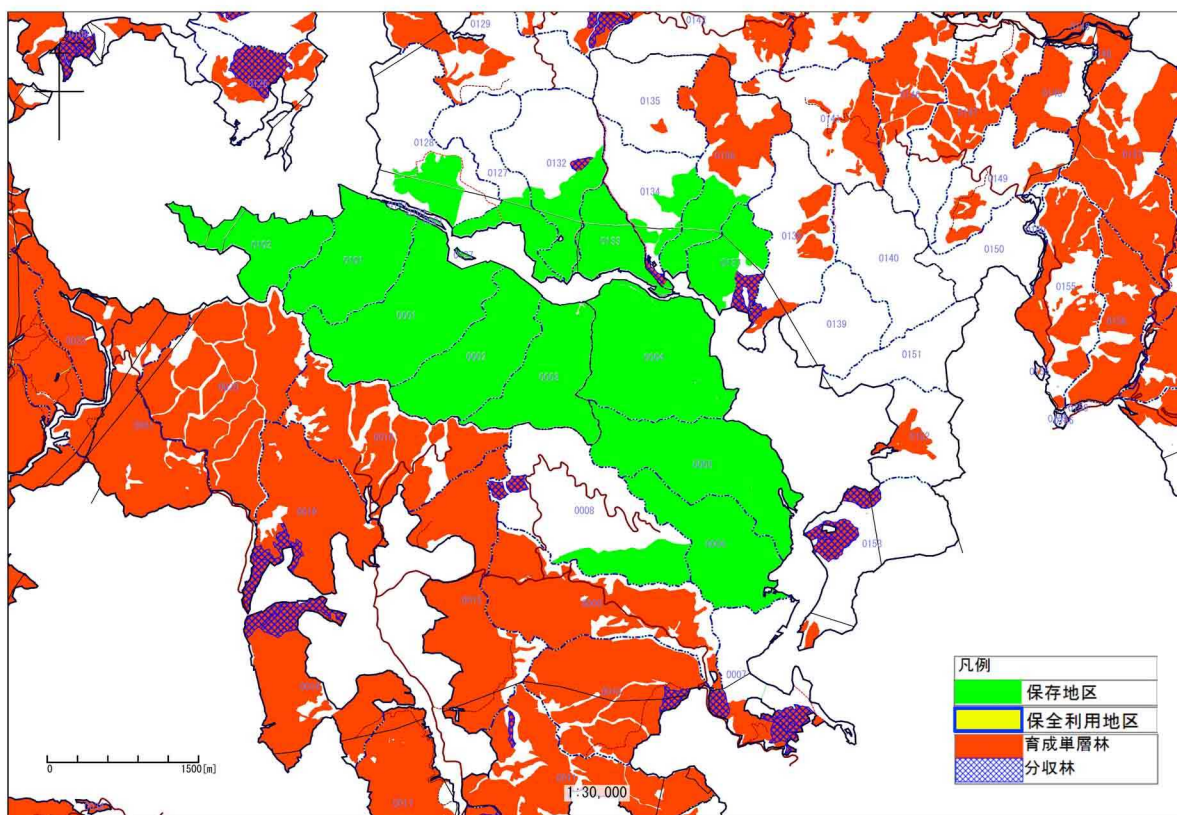


航空写真挿入図

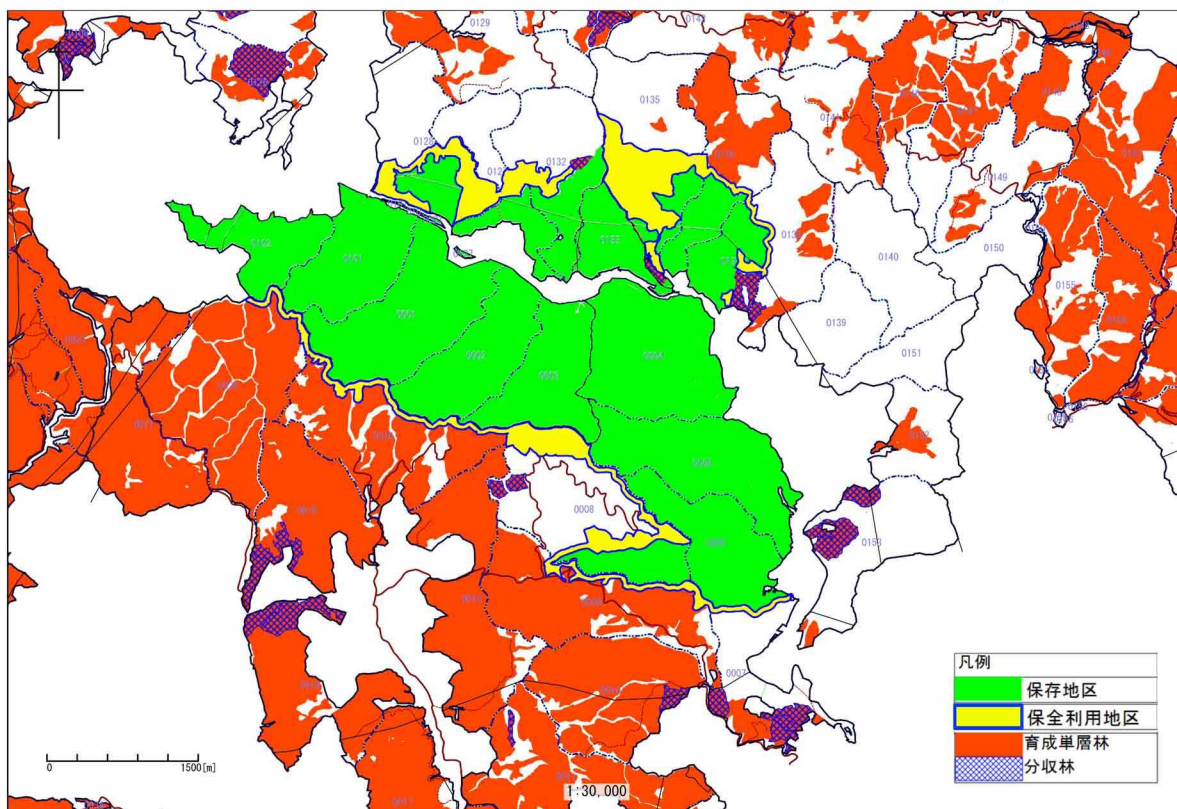


阿武隈高地生物群集保護林 4 - 2

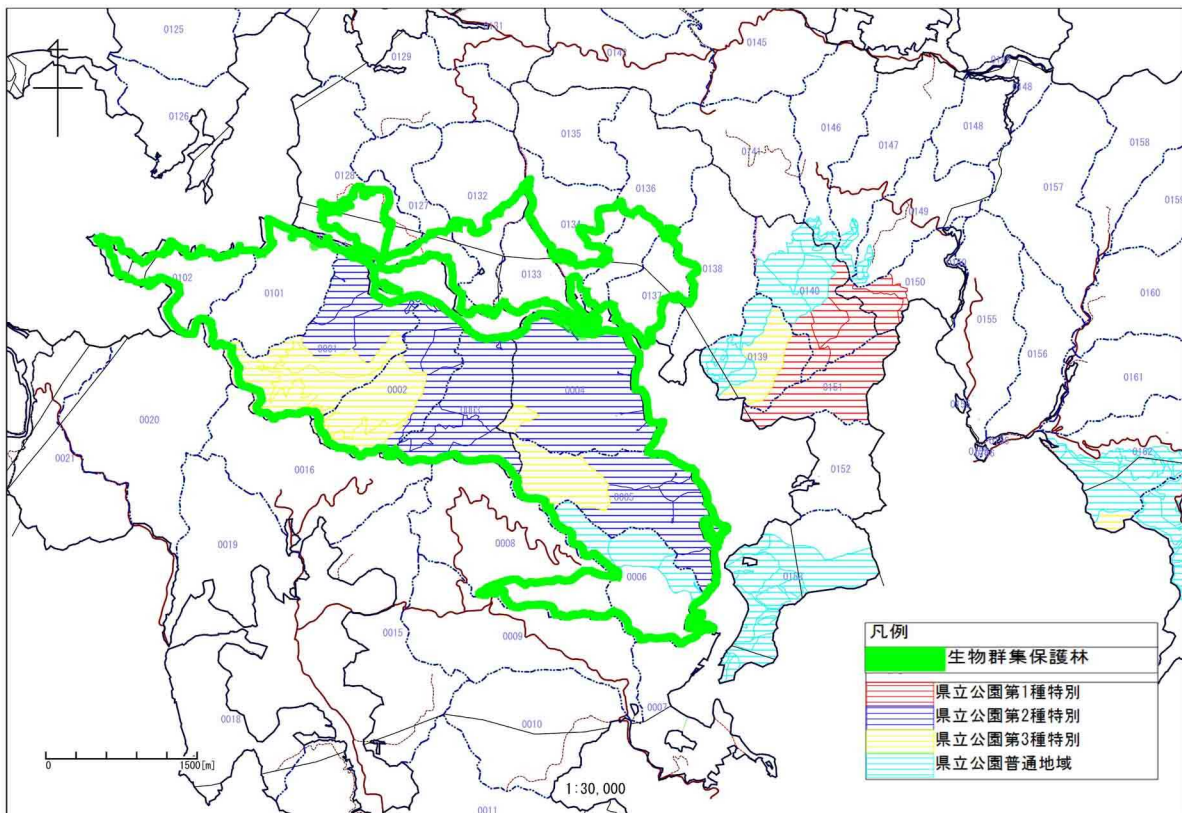
保護林・育成単層林・分収林位置図 (拡張前)



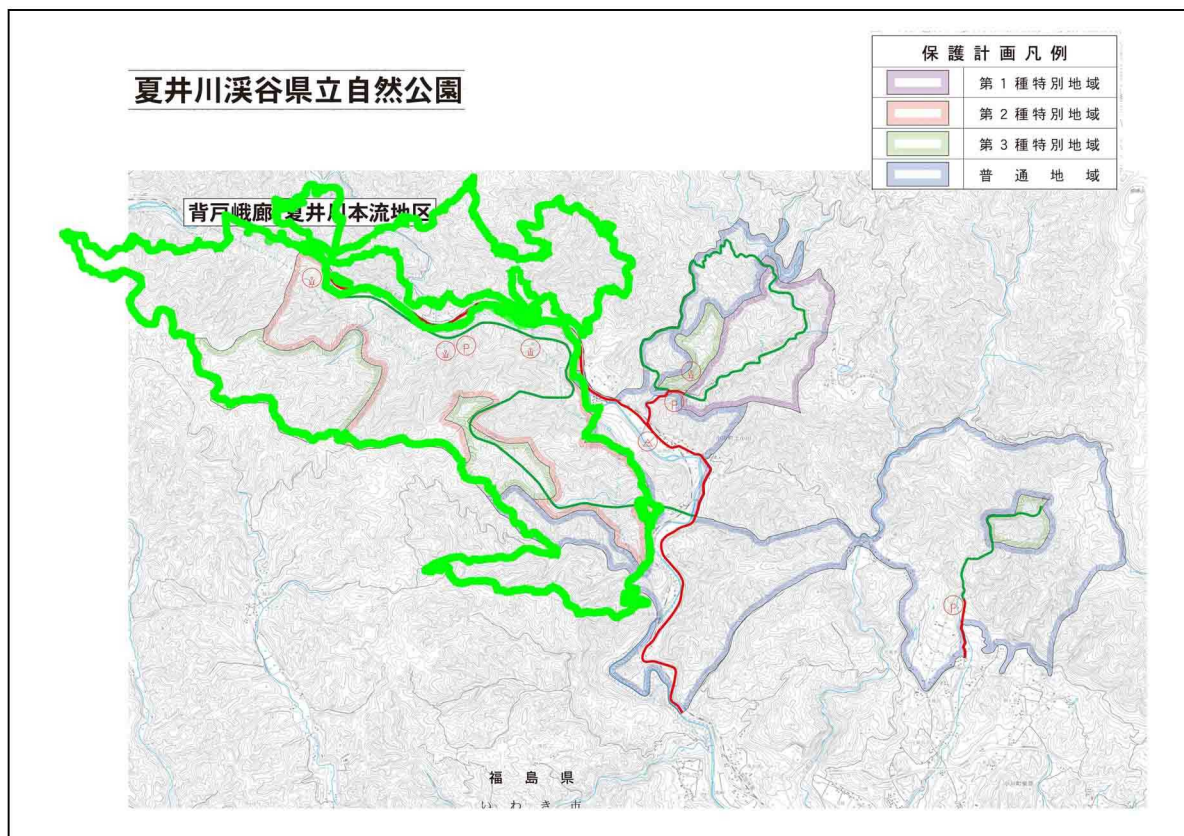
保護林・育成単層林・分収林位置図 (拡張後)



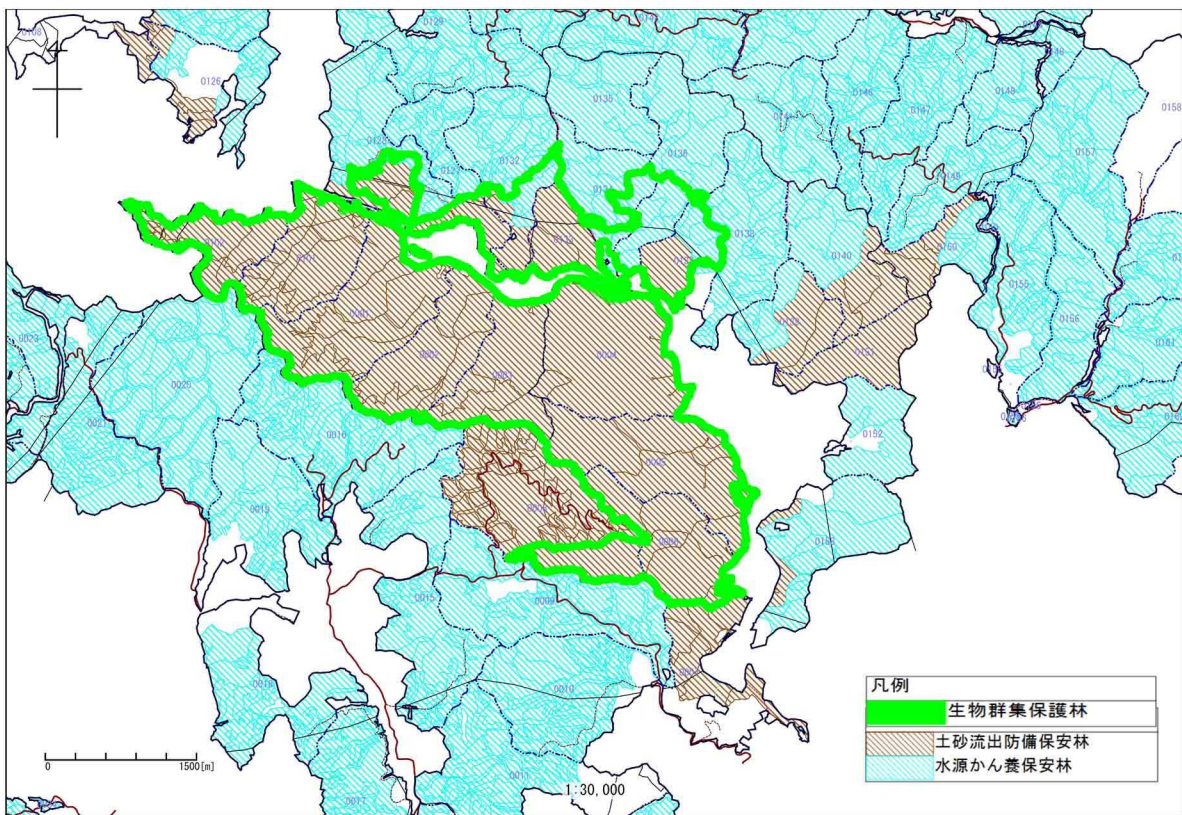
自然公園指定位置図 2 - 1



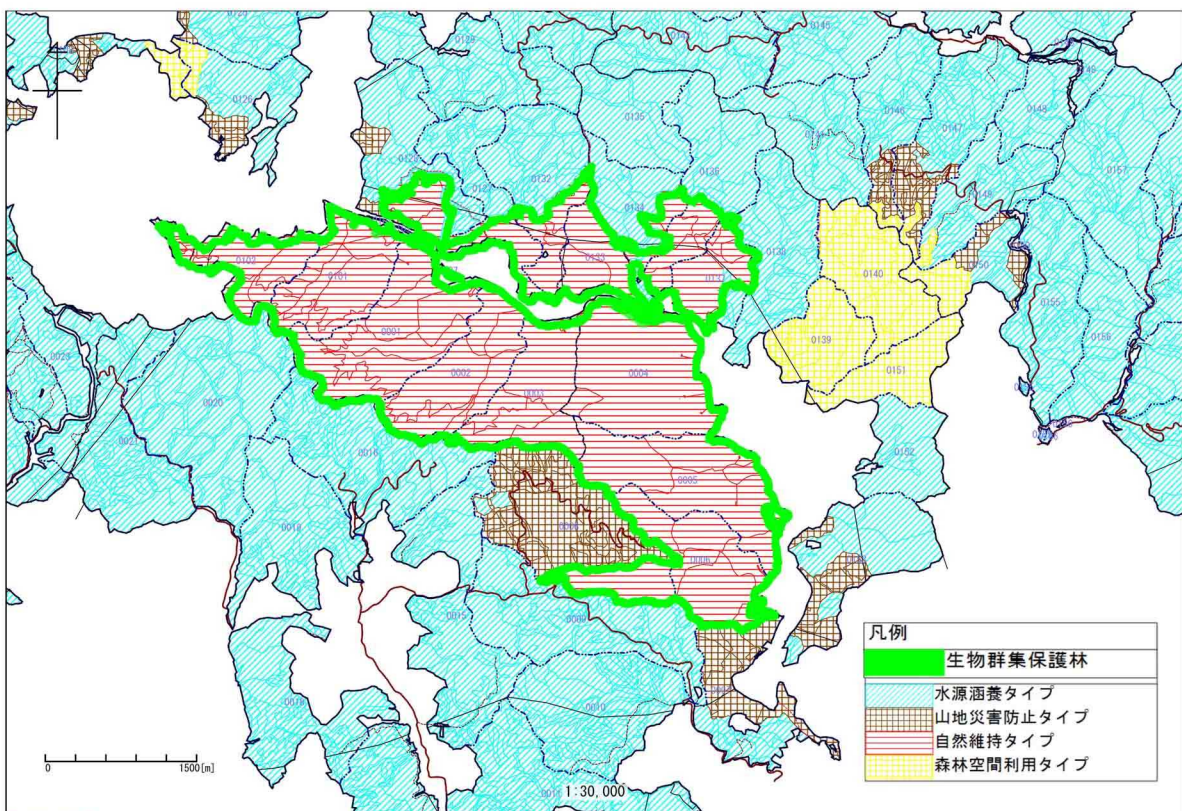
自然公園指定位置図 2 - 2



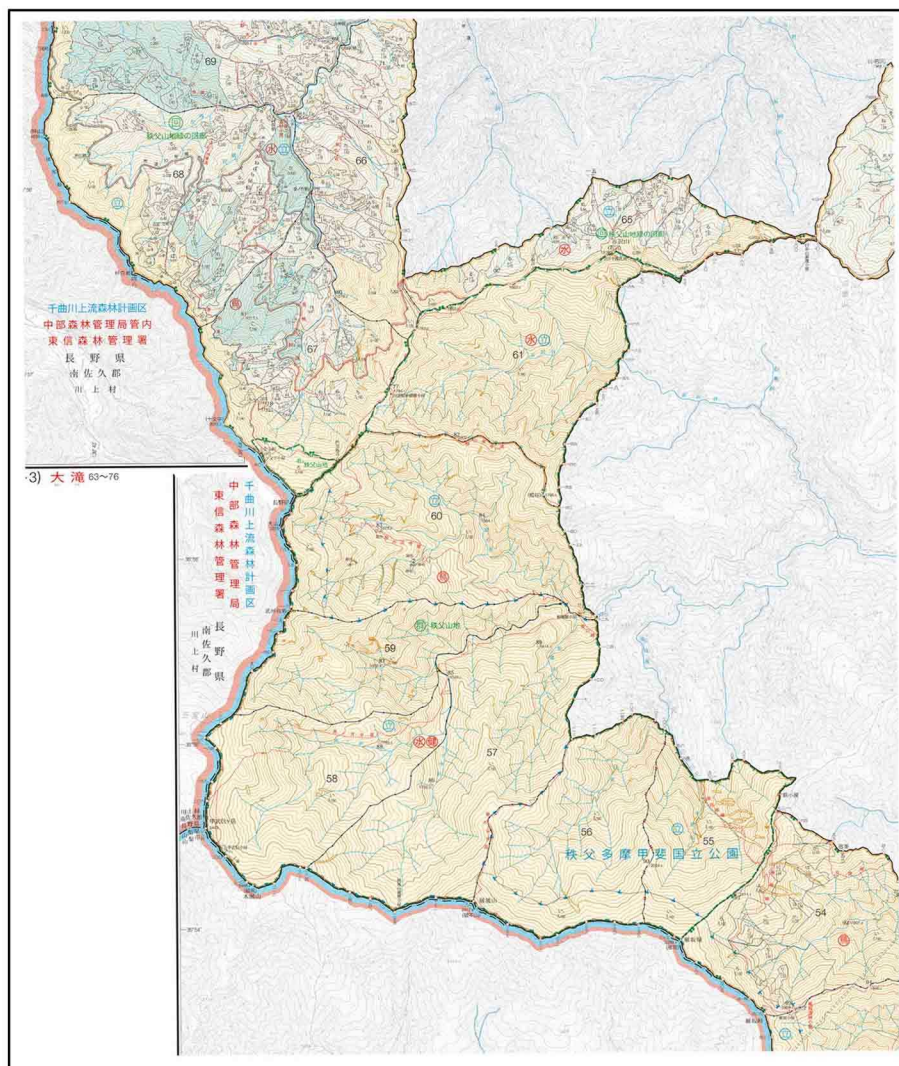
保安林指定位置図



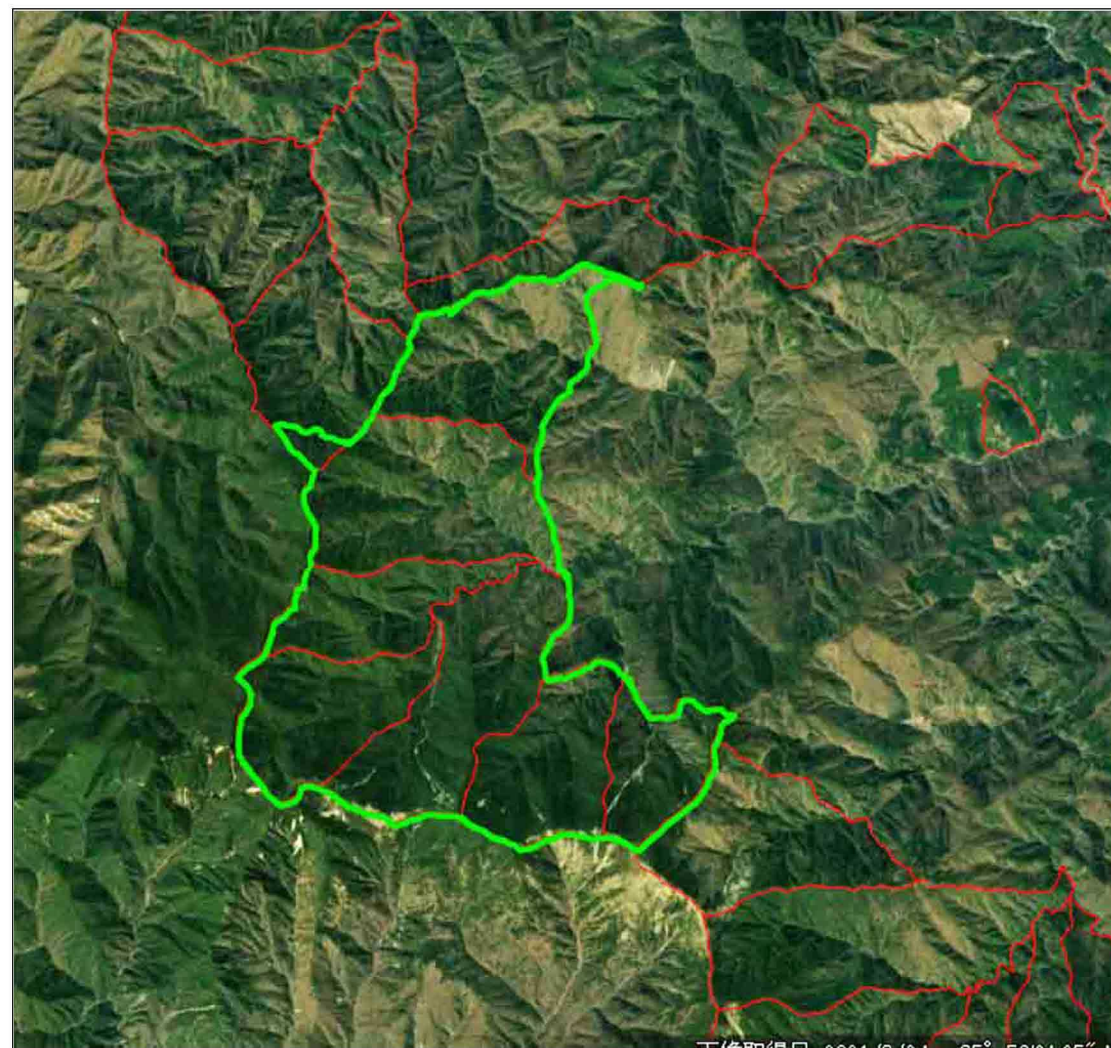
機能類型タイプ別位置図



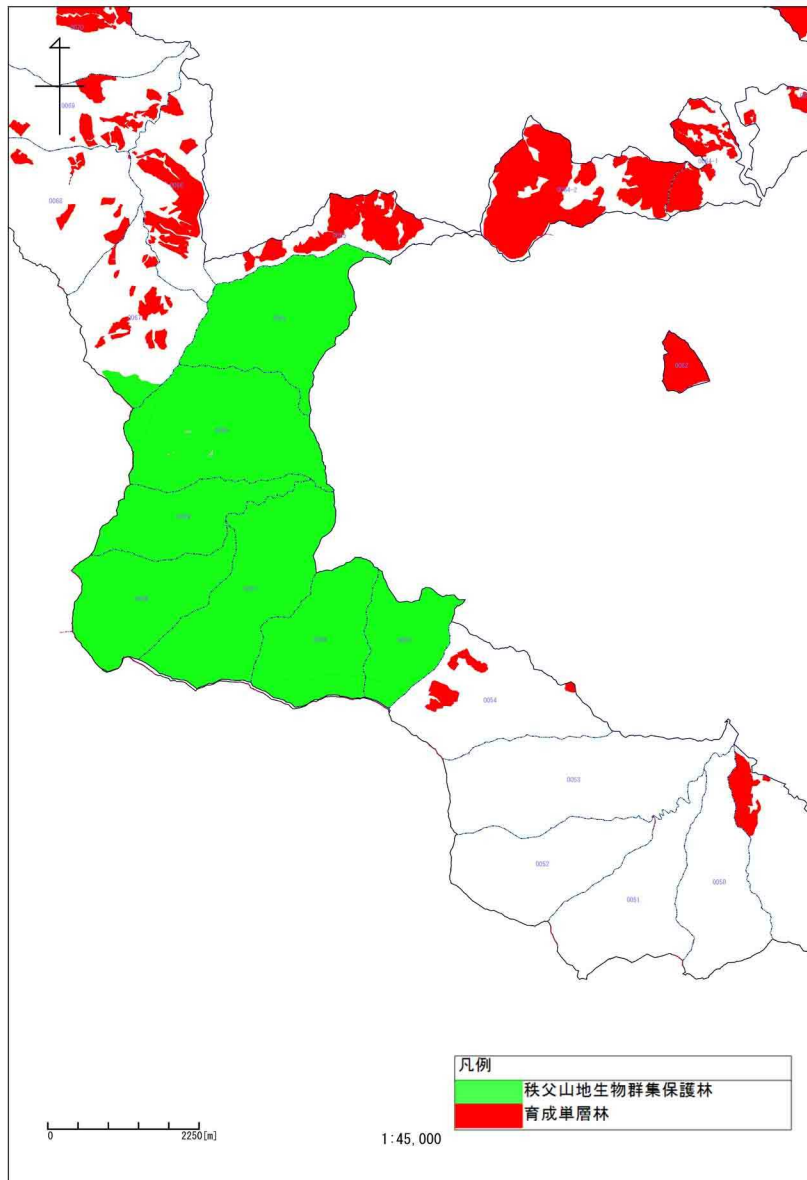
施業実施計画図



航空写真挿入図

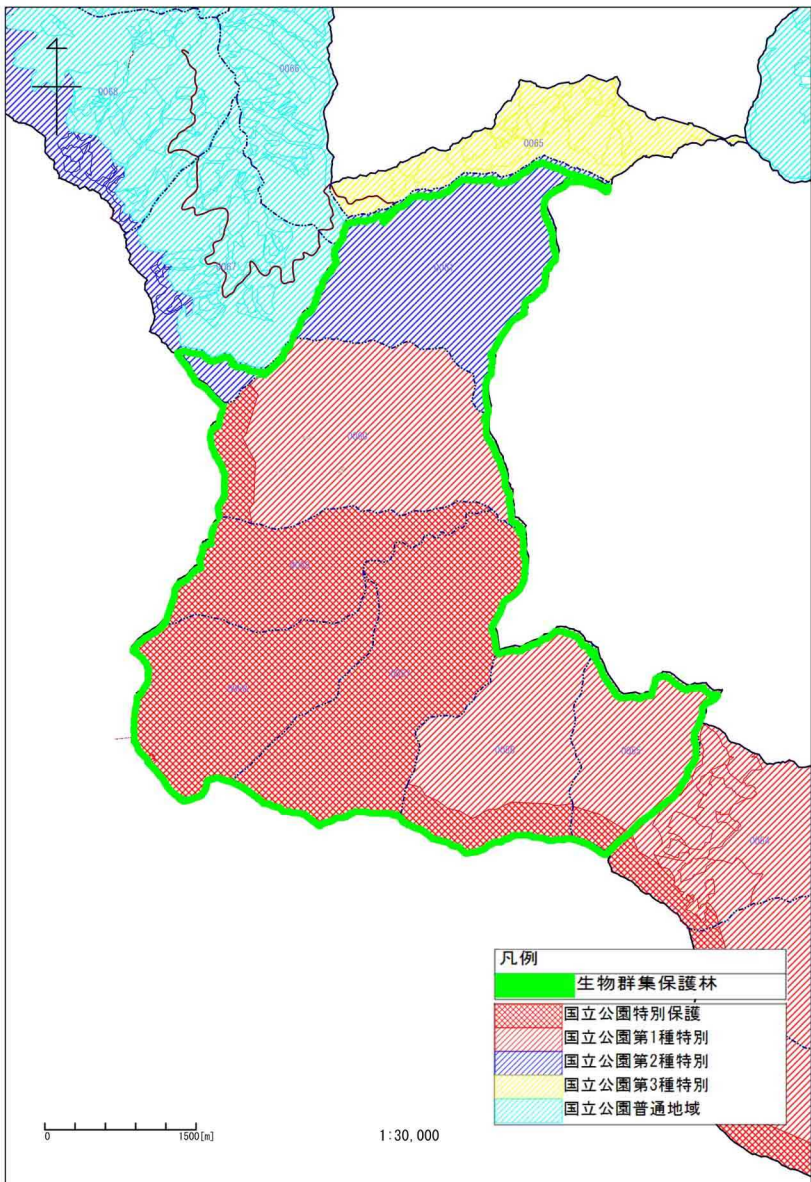


秩父山地生物群集保護林 4 - 2 保護林・育成単層林位置図

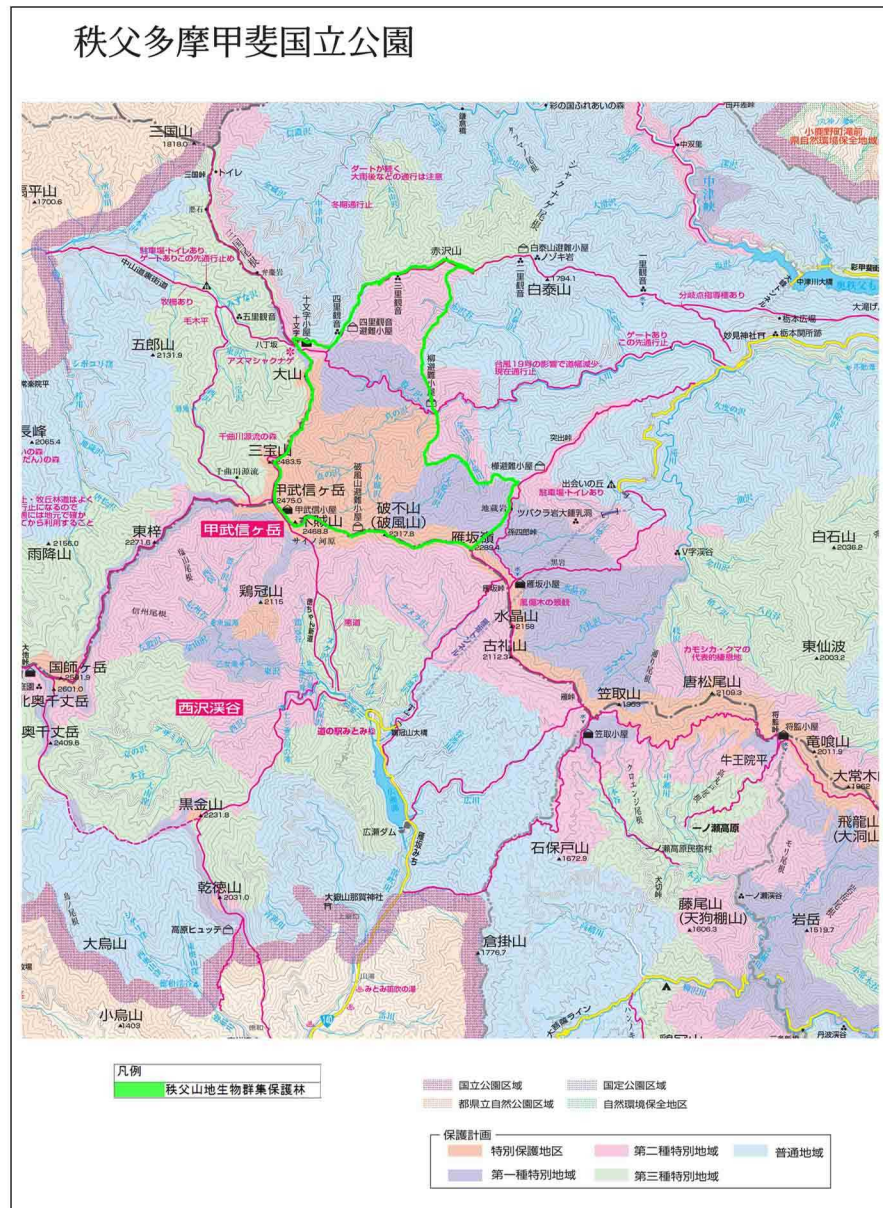


秩父山地生物群集保護林 4-3

自然公園指定位置図 2-1



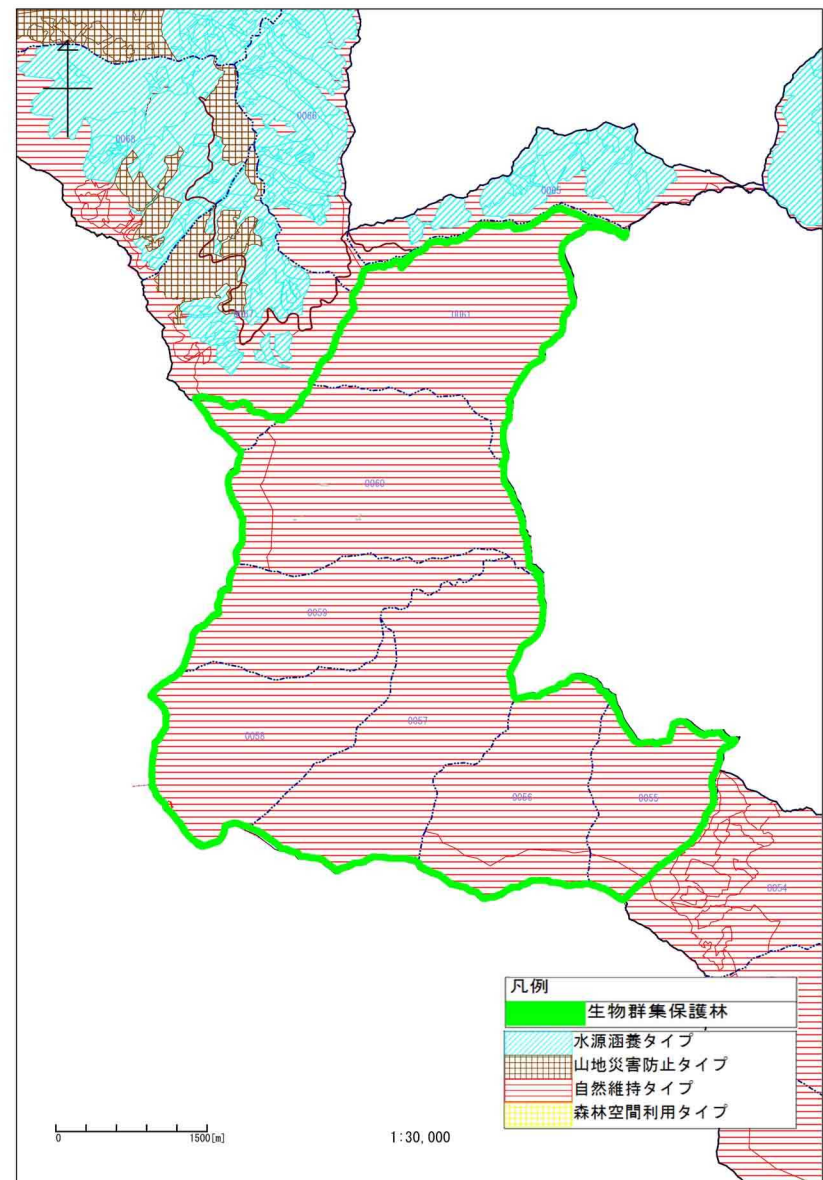
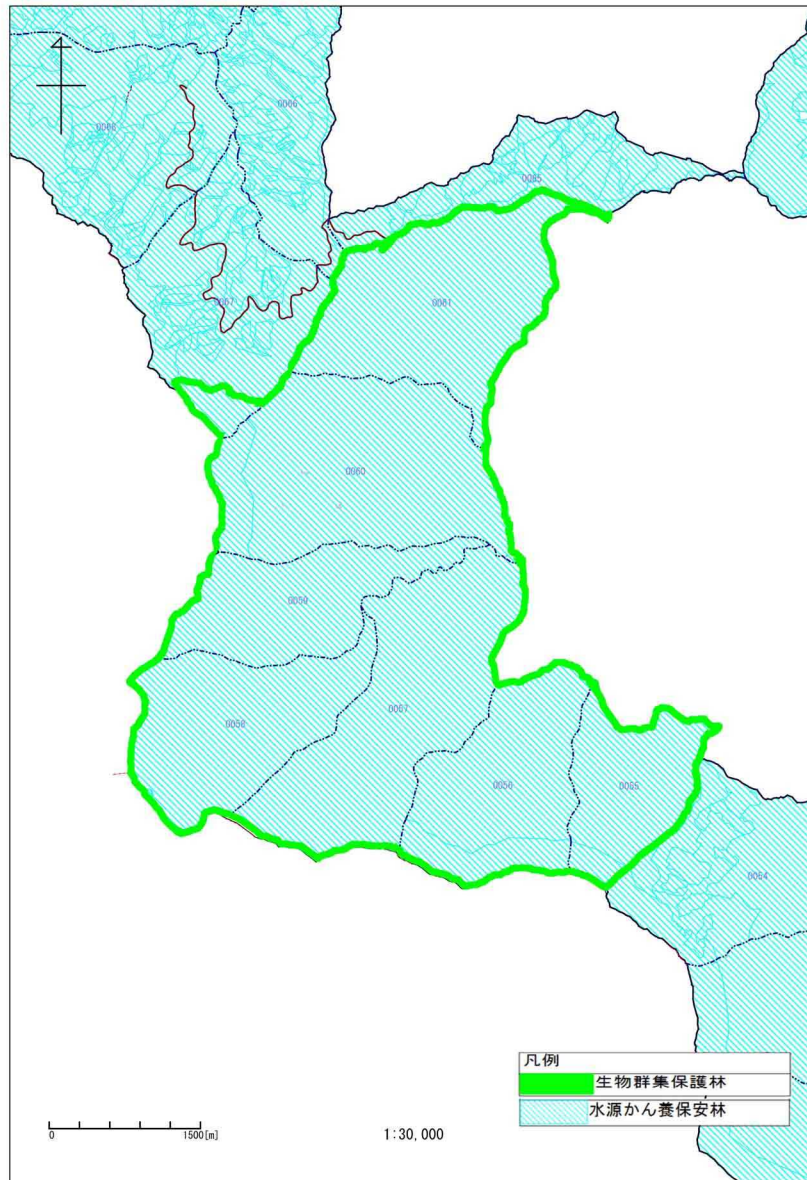
自然公園指定位置図 2-2



秩父山地生物群集保護林 保安林指定位置図

4 - 4

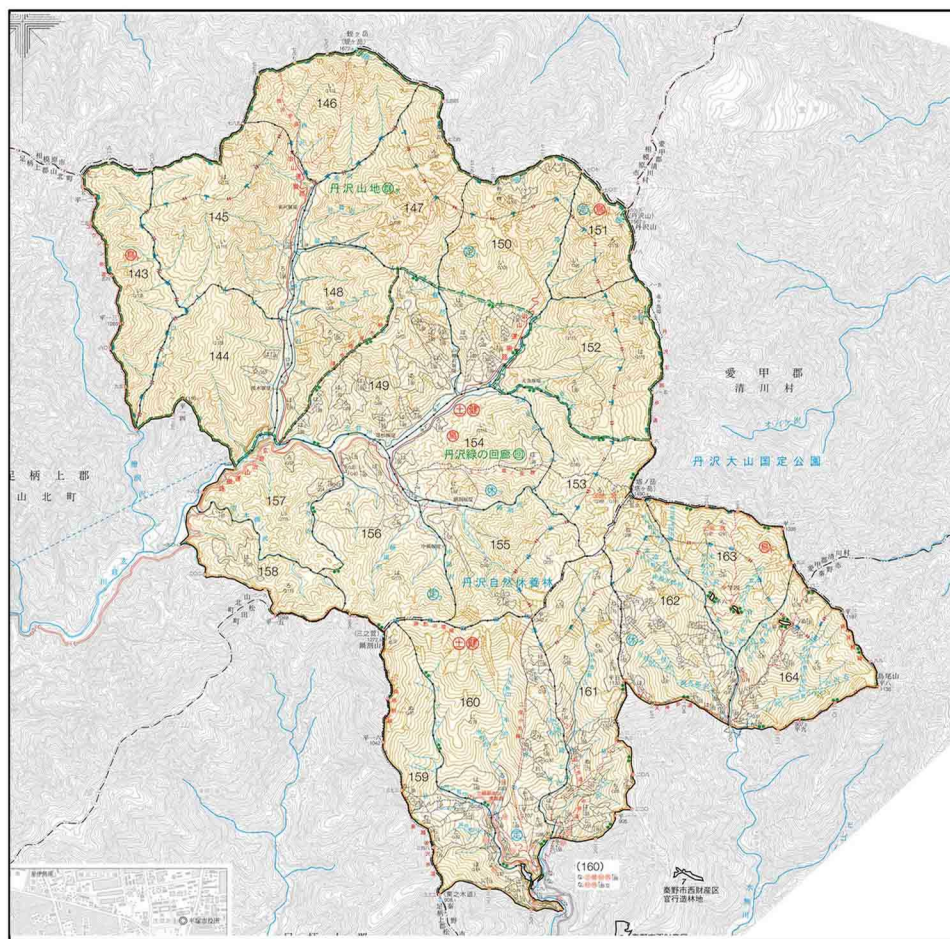
機能類型タイプ別位置図



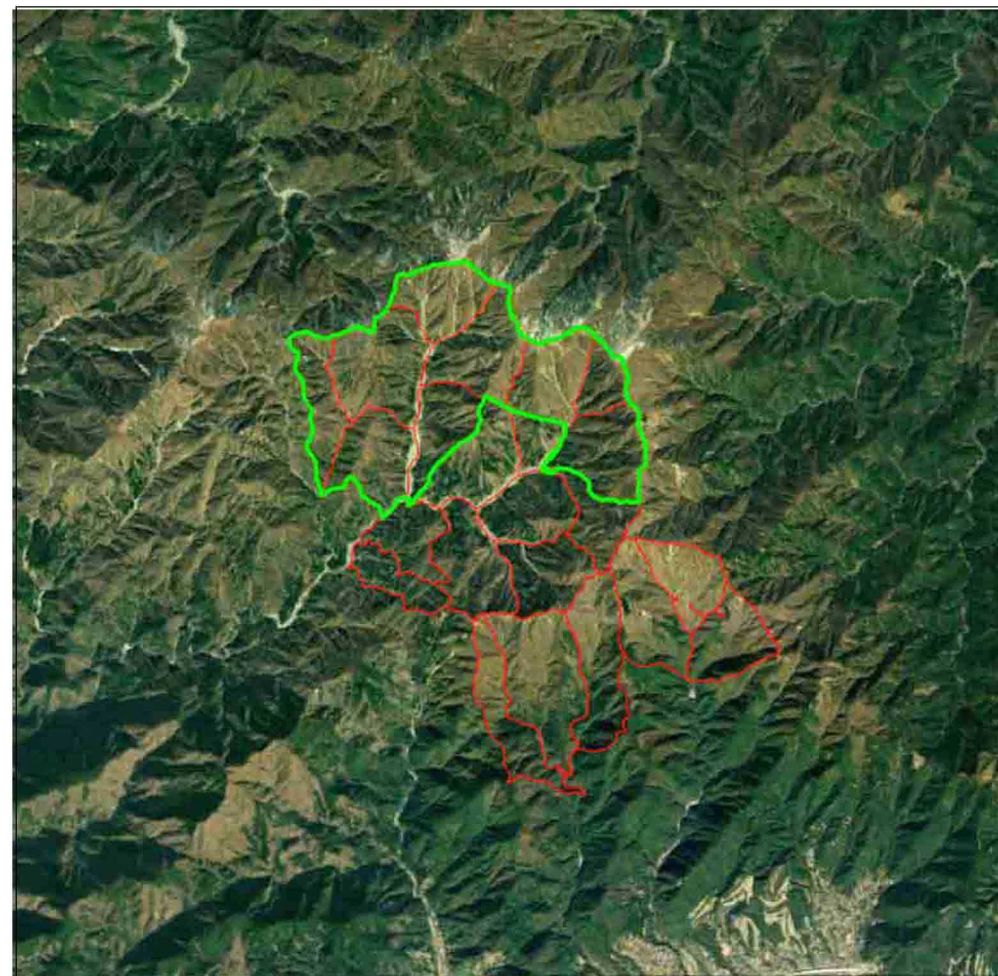
丹沢山地生物群集保護林

4 - 1

施業実施計画図

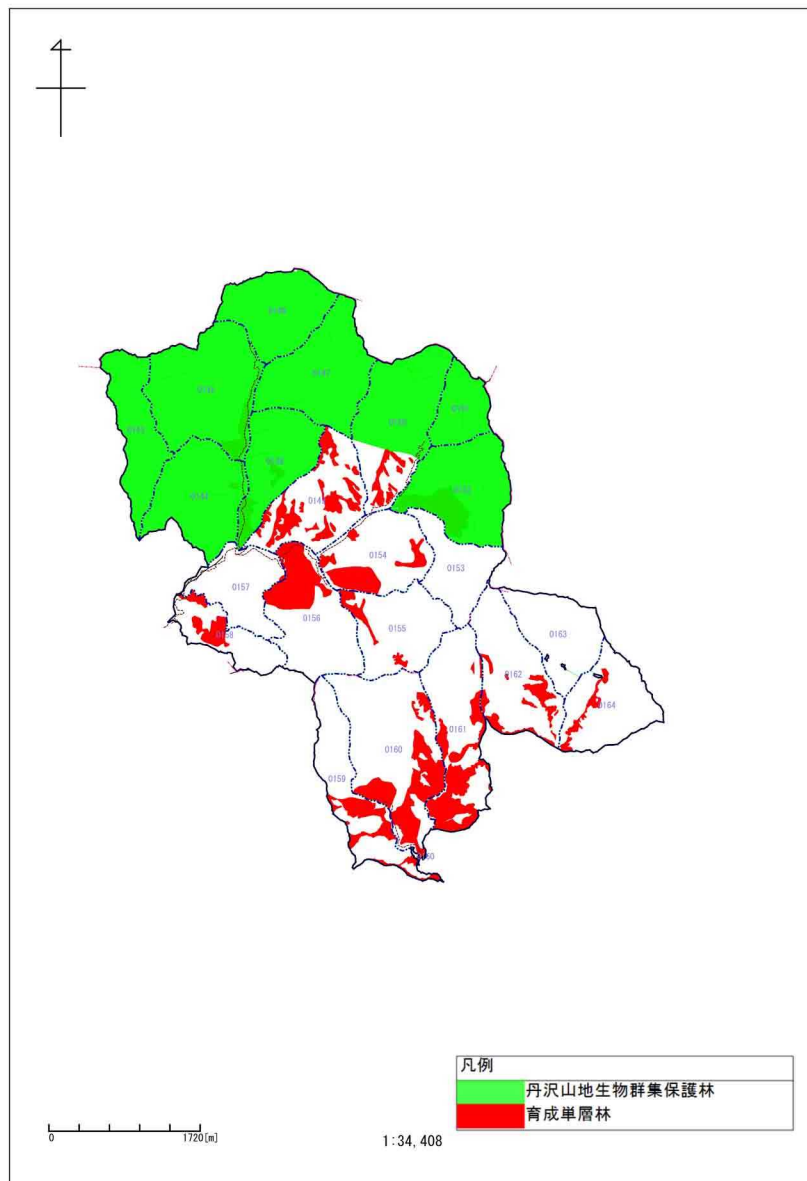


航空写真挿入図



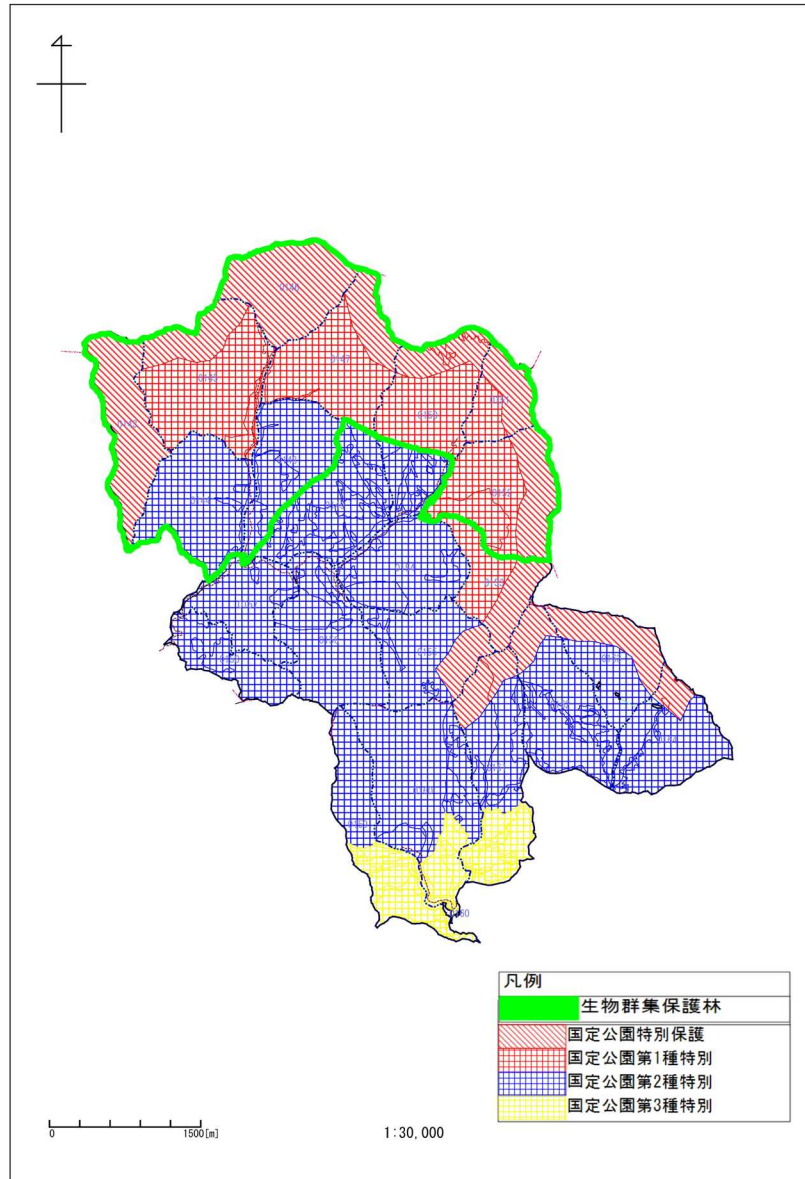
丹沢山地生物群集保護林 4 - 2

保護林・育成単層林位置図

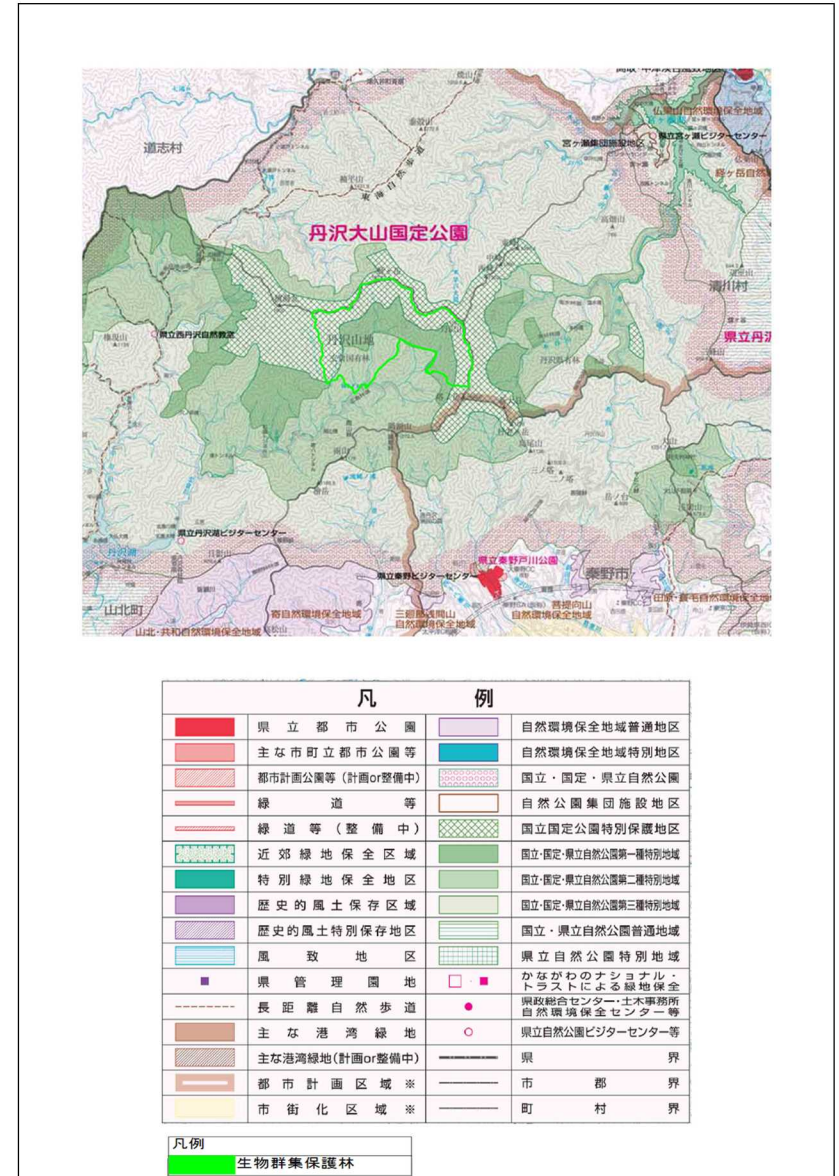


丹沢山地生物群集保護林 4-3

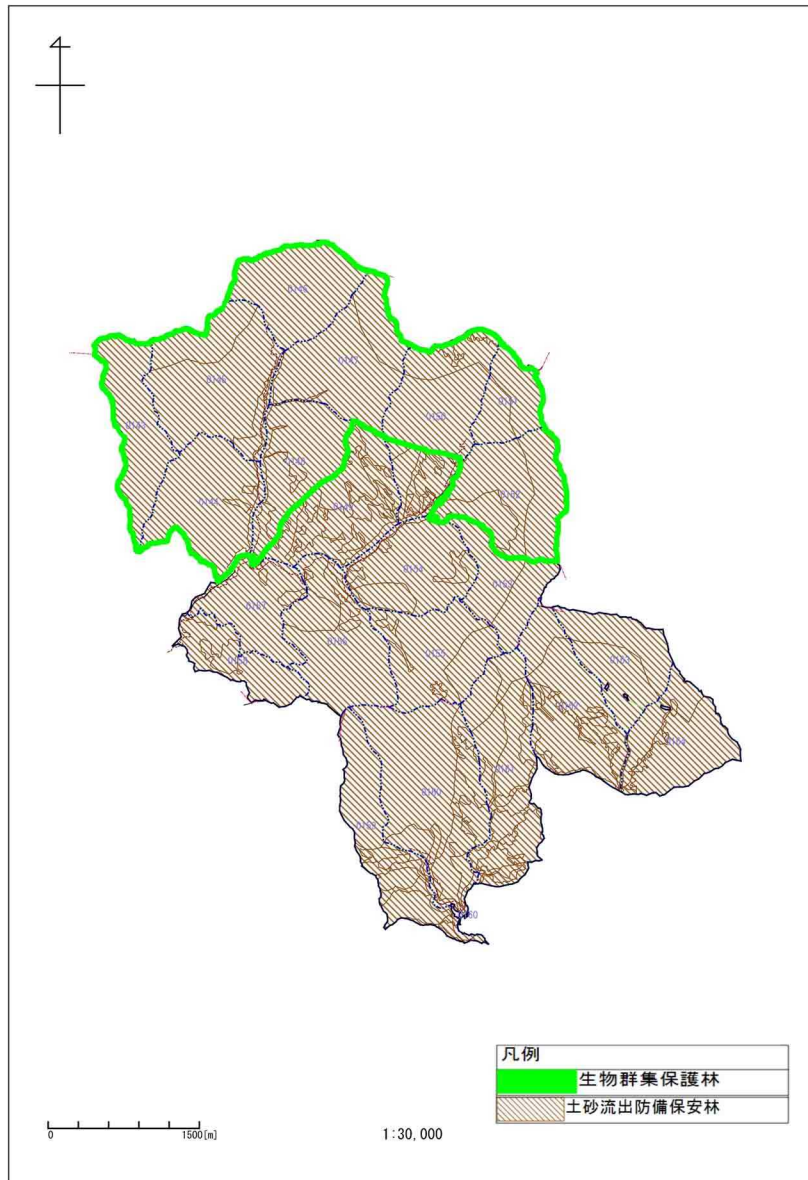
自然公園指定位置図 2-1



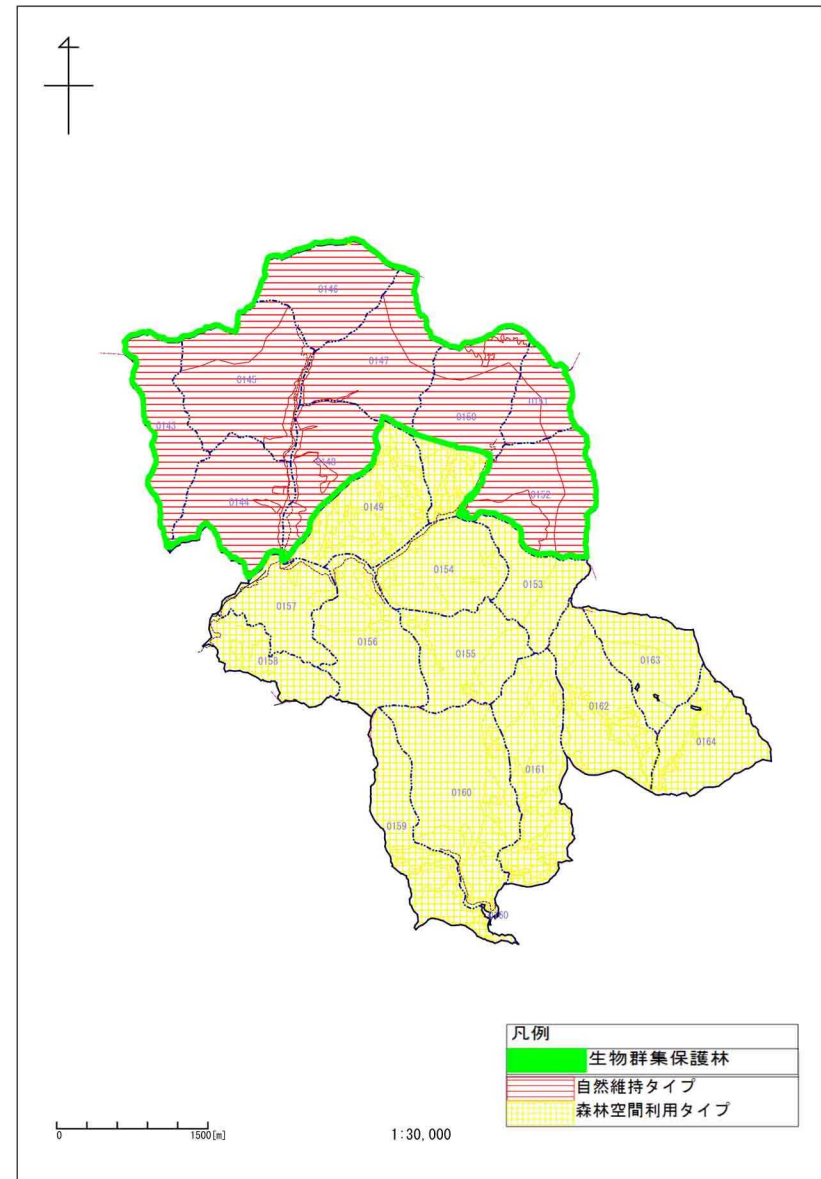
自然公園指定位置図 2-2



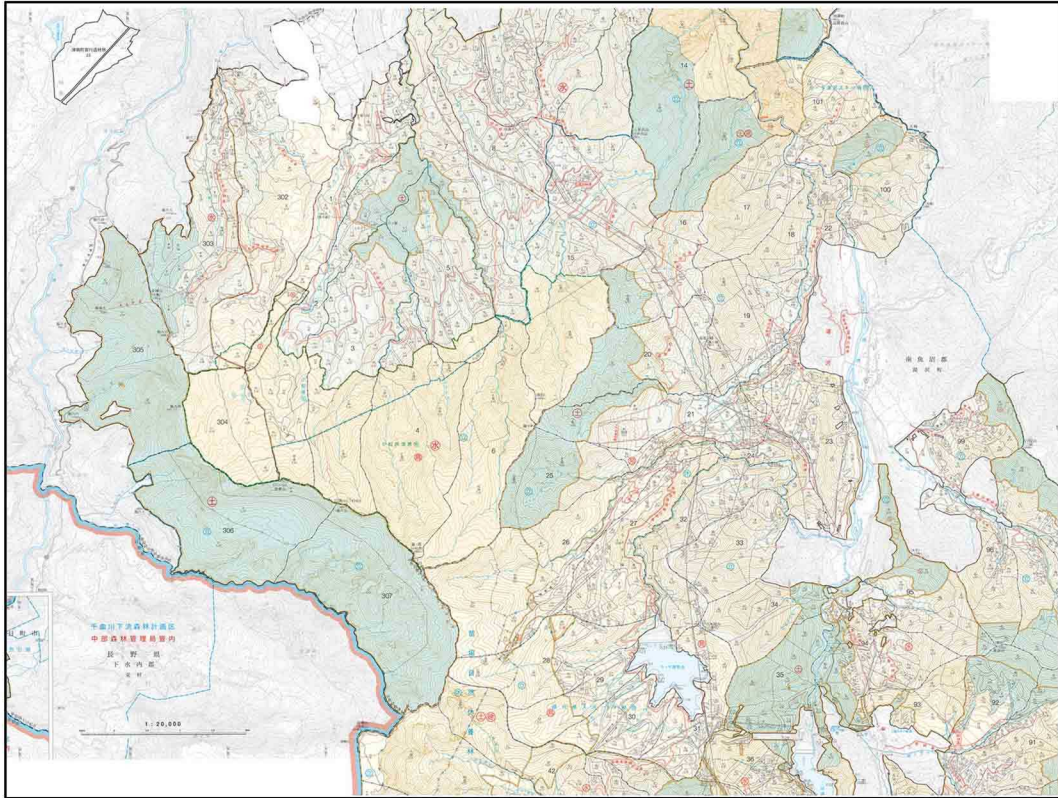
丹沢山地生物群集保護林 4-4 保安林指定位置図



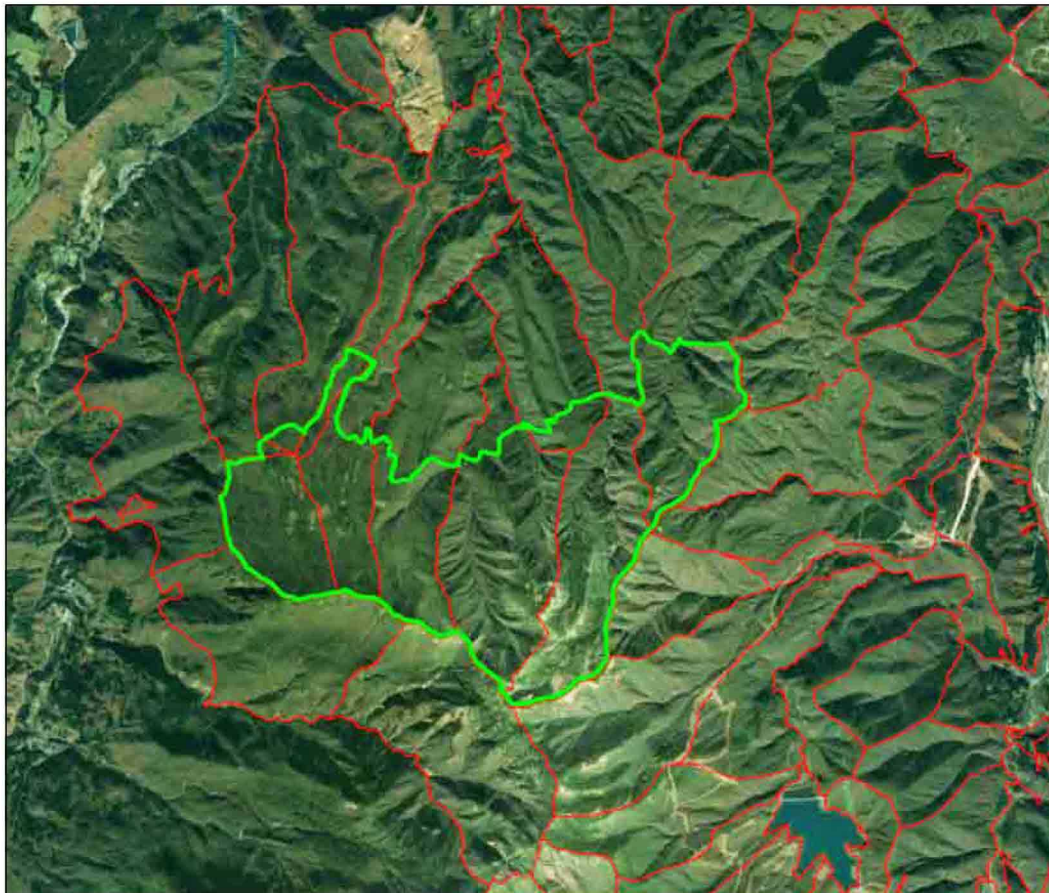
機能類型タイプ別位置図



小松原湿原生物群集保護林 3-1 別紙4 施業実施計画図



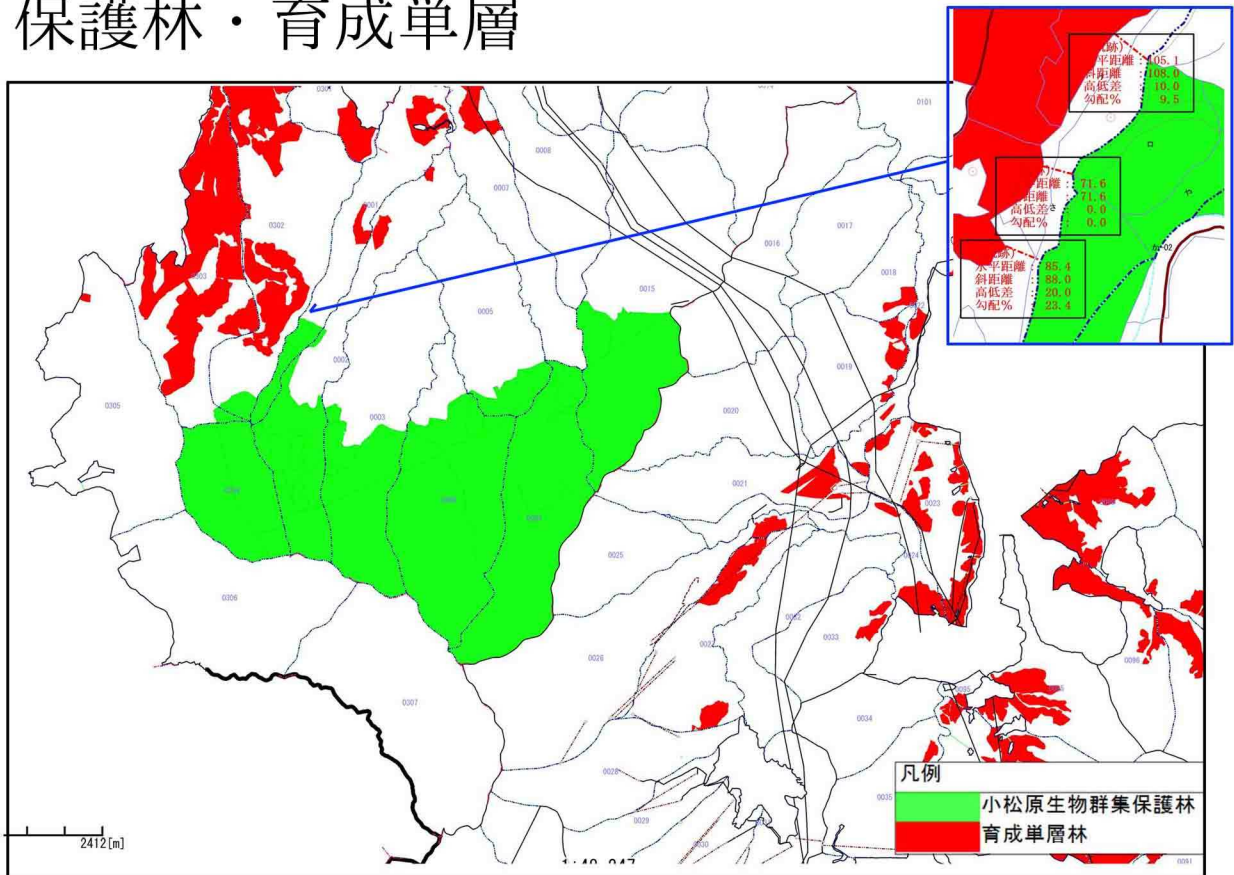
航空写真挿入図



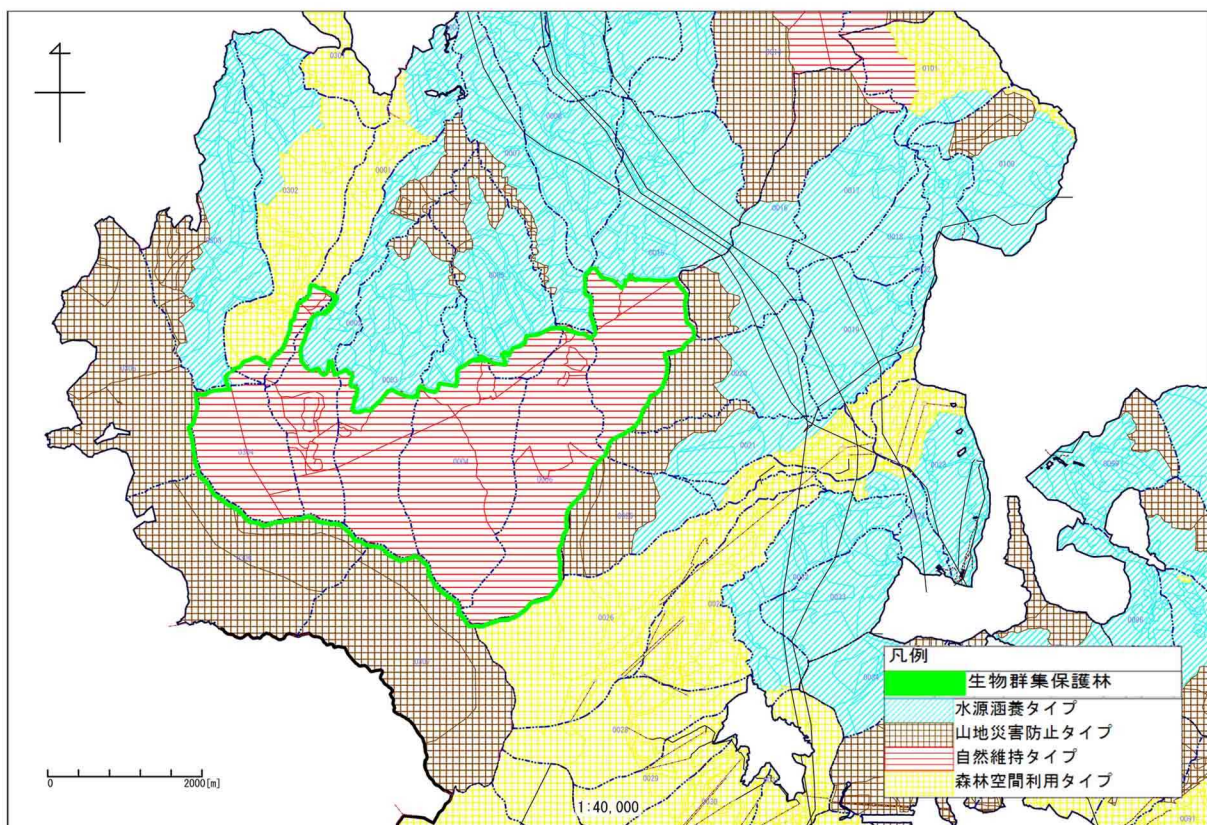
小松原湿原生物群集保護林 3-2

育成単層林から保護林までの
距離 (参考)

保護林・育成単層

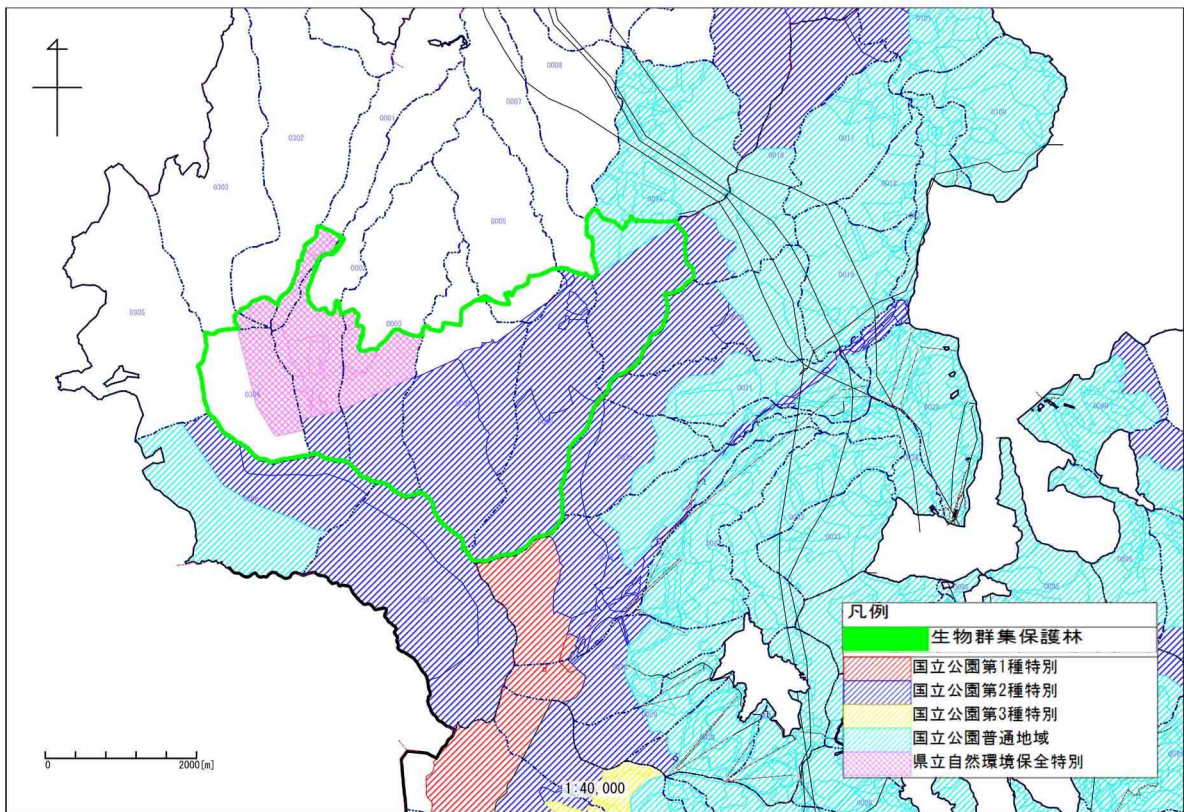


機能類型タイプ別位置図

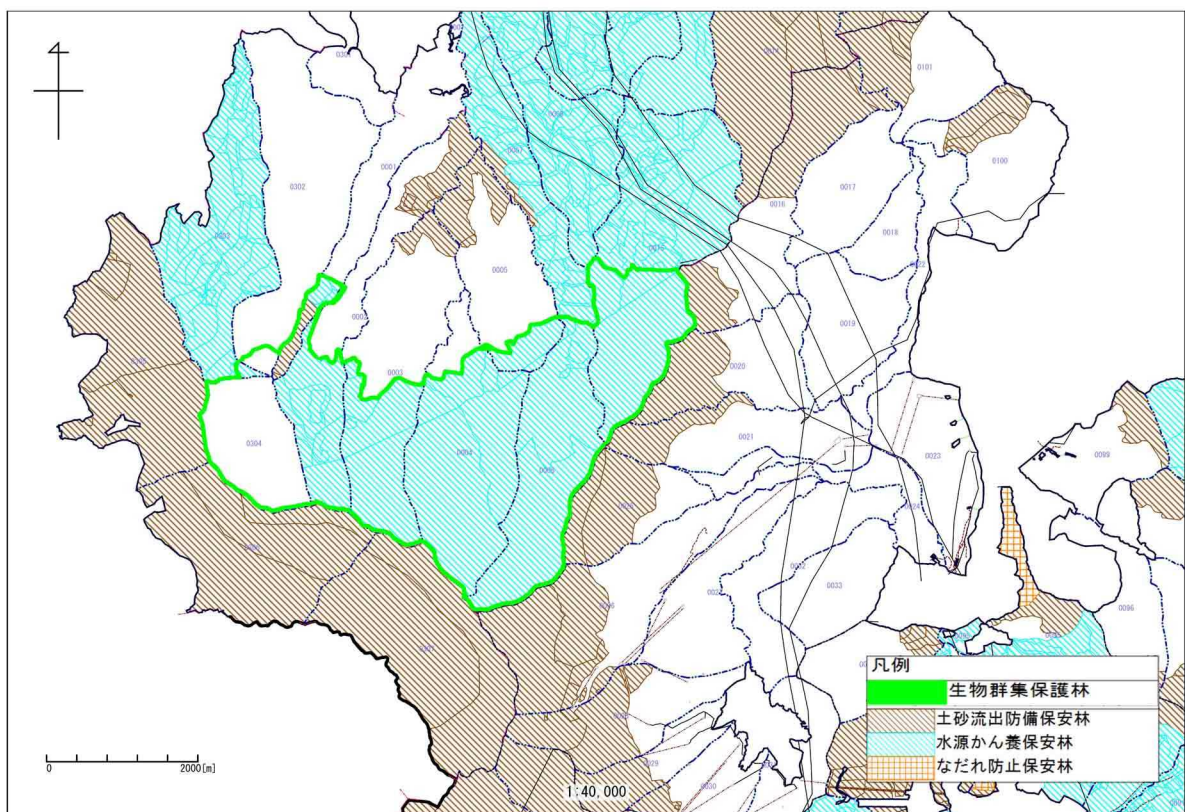


小松原湿原生物群集保護林 3-3

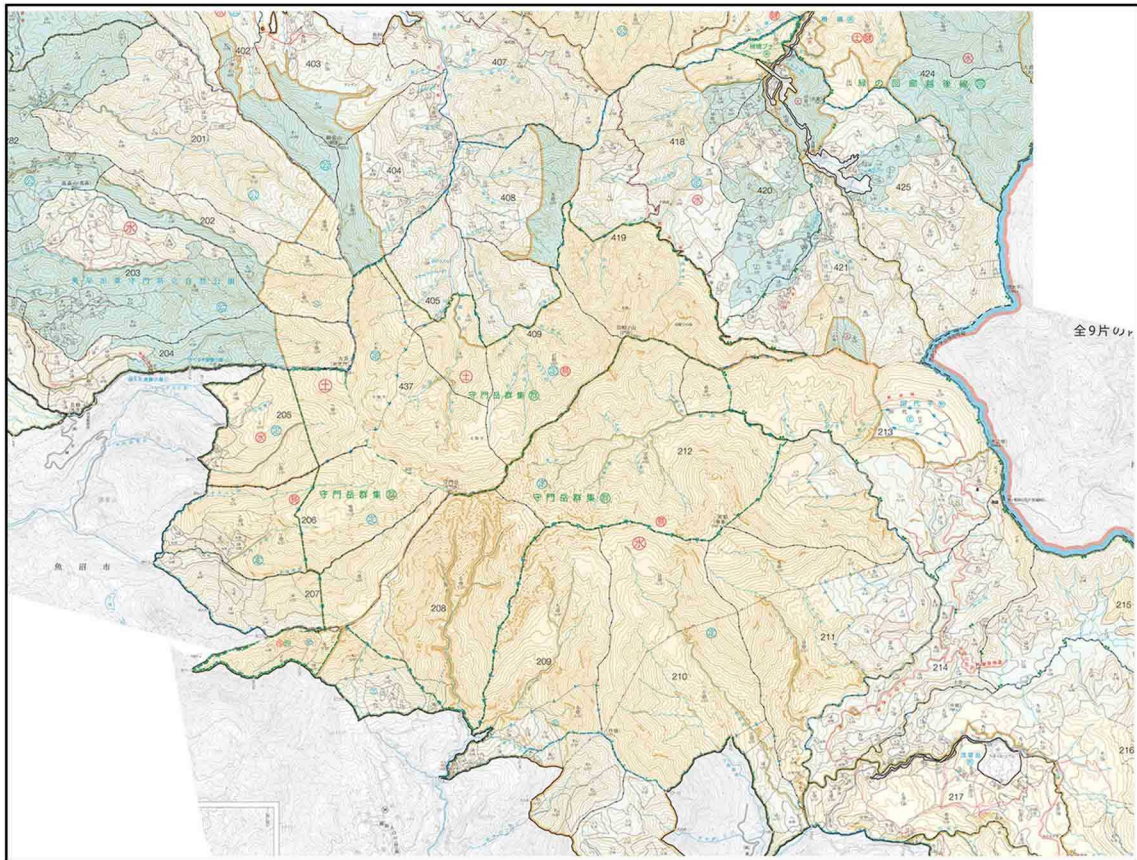
自然公園指定位置図



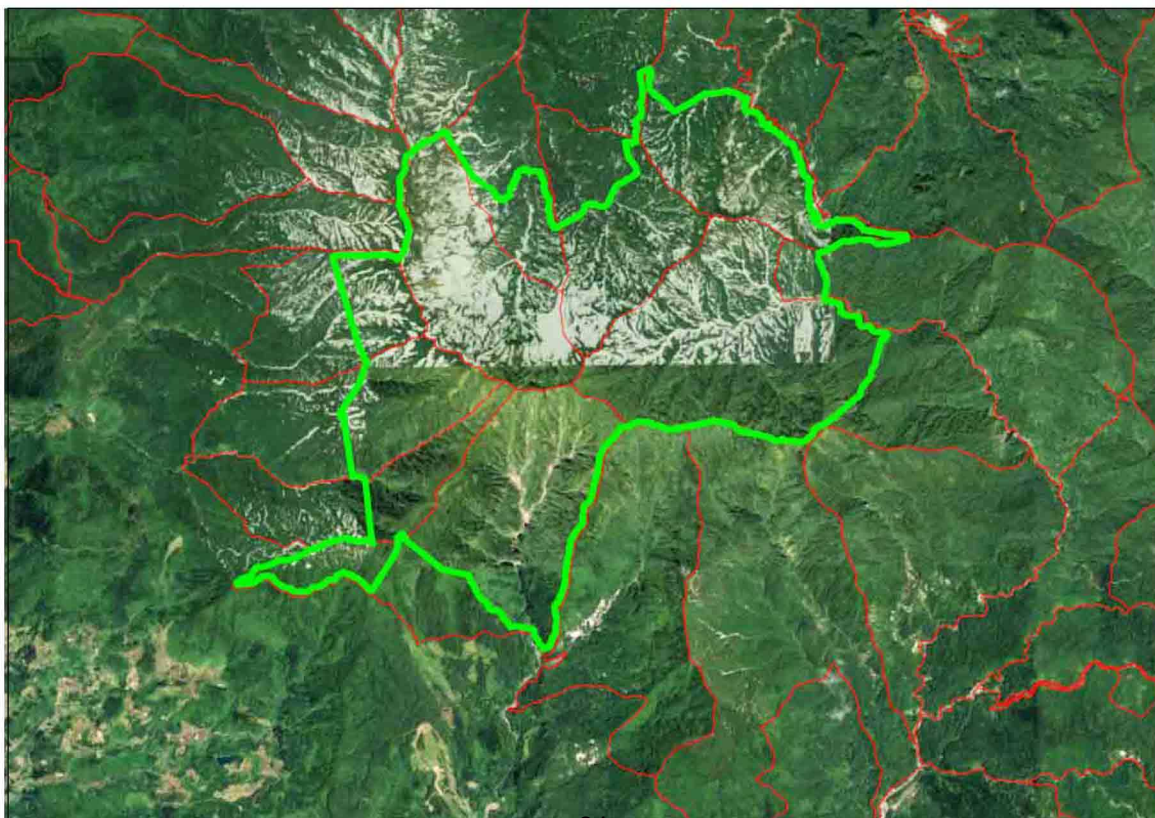
保安林指定位置図



施業実施計画図



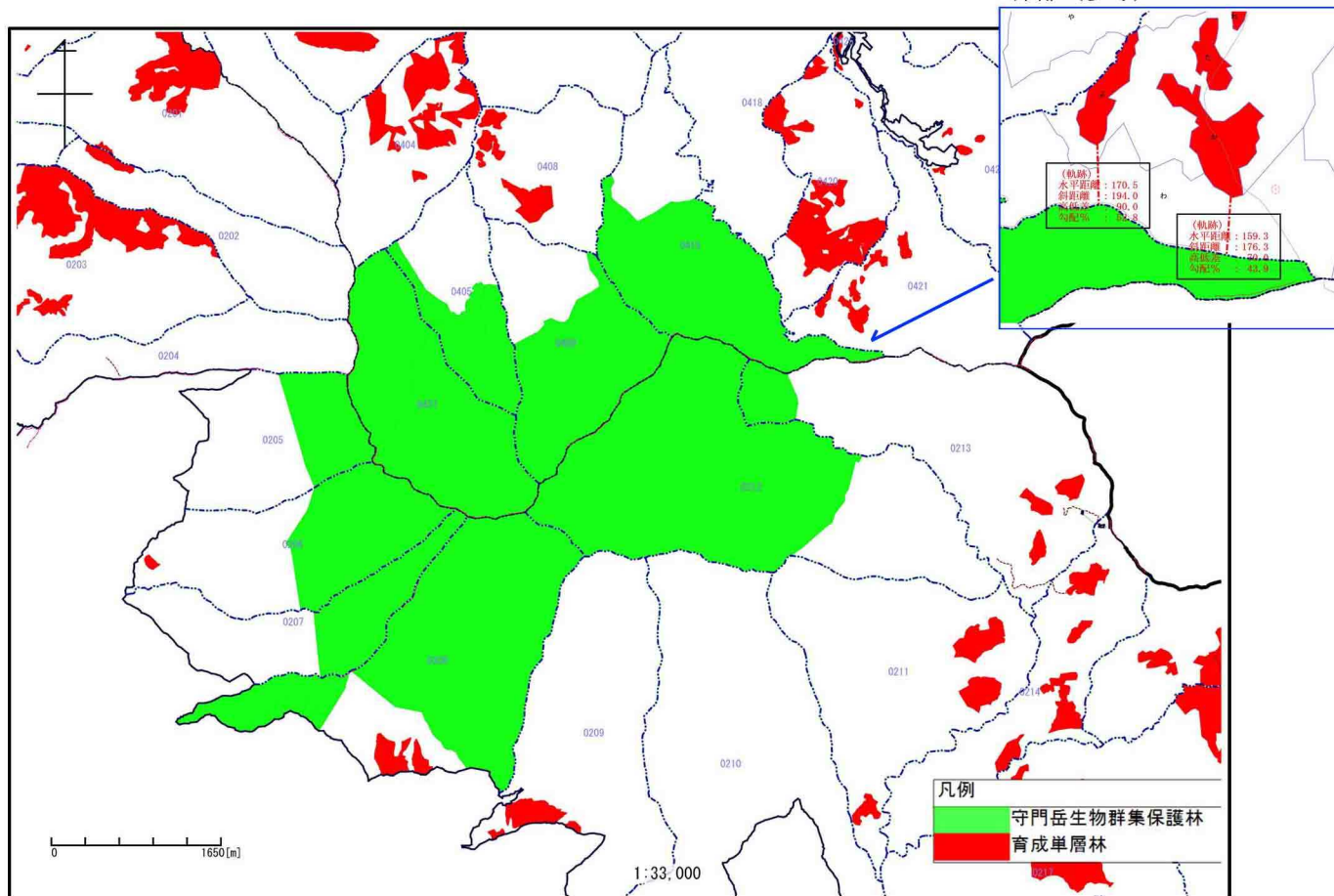
航空写真挿入図



守門岳生物群集保護林 4 - 2

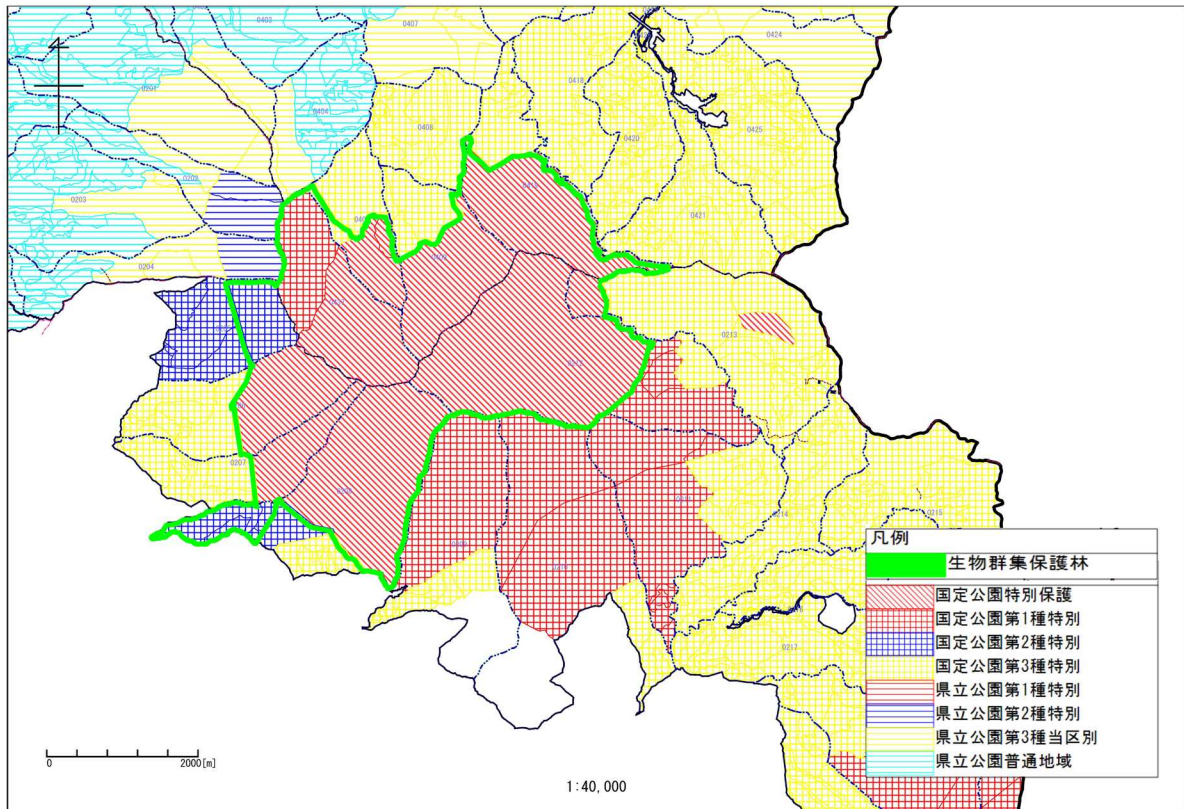
保護林・育成単層林位置図

育成単層林から保護林までの距離（参考）

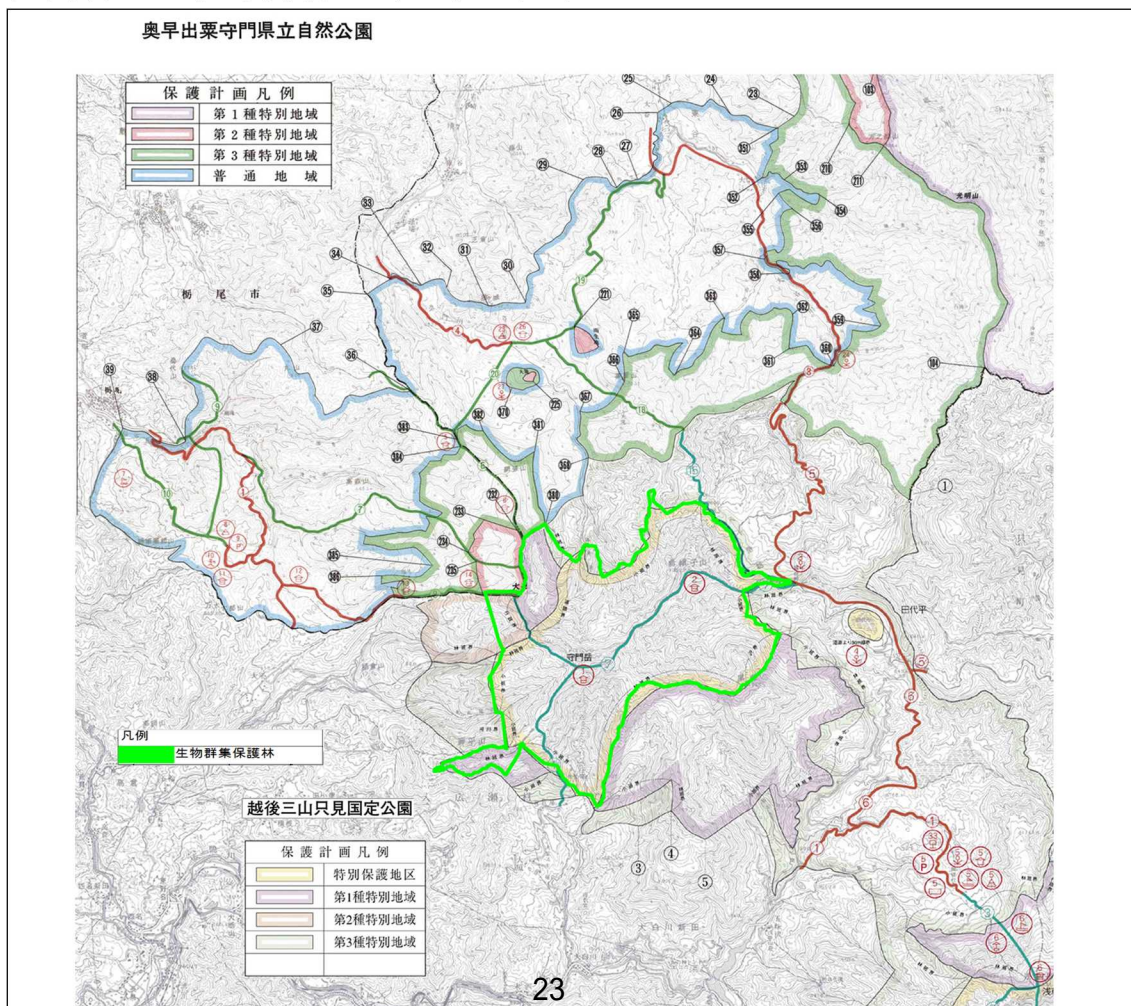


守門岳生物群集保護林 4-3

自然公園指定位置図 2-1

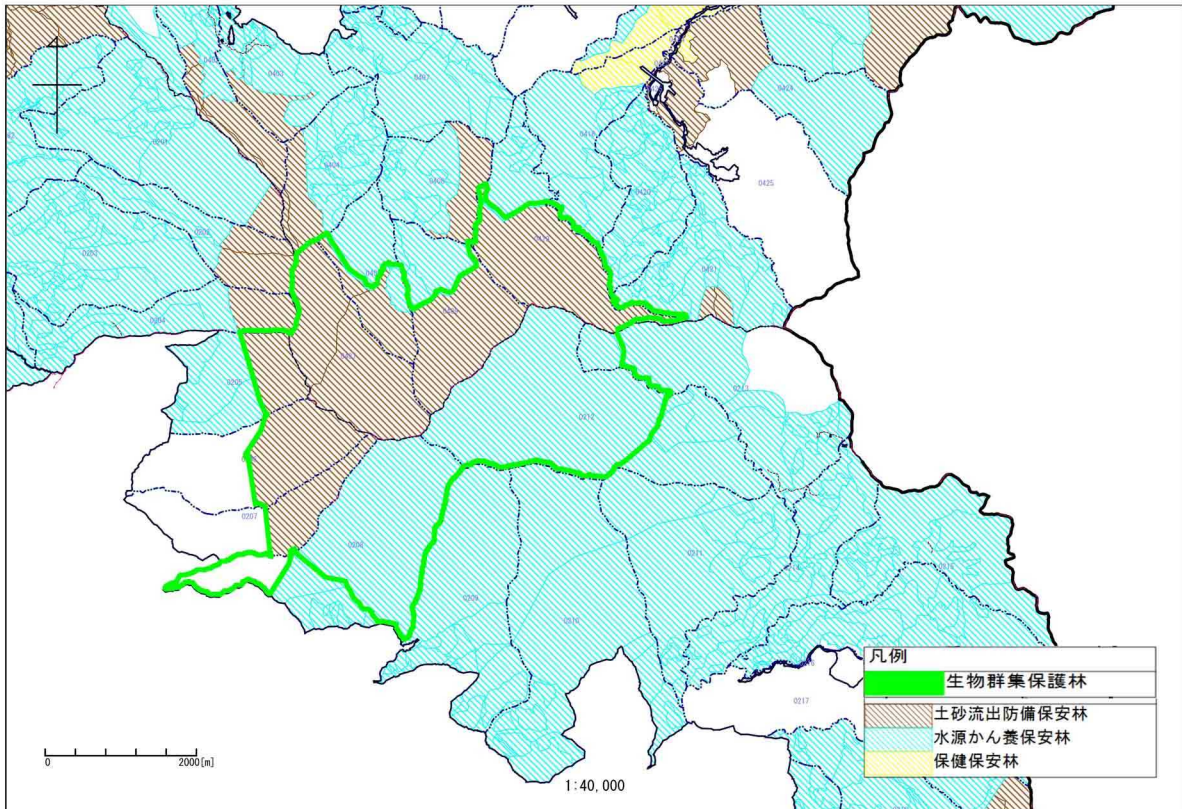


自然公園指定位置図 2-2



守門岳生物群集保護林 4-4

保安林指定位置図



機能類型タイプ別位置図

